

令和3年度 事務事業総点検表（1次評価）

観光交流文化 局

①所属名	№	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費		⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					実績値	達成度		
																		R2	R1						H30	当該年度の目標値の算出根拠
観光・MICE推進課	1	ナイトツーリズム推進事業	H 31 -	市(直営・委託)	日本平からの夜景を軸とした夜の楽しみ方を創出・発信し、観光客の市内滞在時間を延長、市内観光消費の拡大につなげる。	①静岡夜景のブランディング ②日本平の集客力向上 ③ナイトタイムエコノミーの充実	①ブランディングのための委託業務実施 ②日本平山頂での共同イベント実施 ③パイロット事業の実施	①実施 ②2回 ③実施	①実施 ②1回 ③実施	一般	23,300	—	21,825	1.0	0.0	日本平夜景整備計画案のイメージバース完成	完了	—	—	—	令和4年度に計画策定を目指しており、令和3年度内にイメージバースを完成させる必要がある。	完了	A	A	整備計画(素案)を作成し、駿府城公園における先行整備を含む計画の方向性を整理することができた。また、静岡の夜景Webページを開発し情報発信の基盤を整備したとともに、民間イベント等と連携し、日本平山頂への送客、観光商品の販売等の実効力のあるソフト事業を本格化していく。	市内夜景のブランディングや夜間の集客力向上、経済効果創出に向け、ソフト事業とハード事業の好循環を創出するため、今後、観光客に対するプロモーションや、日本平山頂への送客、観光商品の販売等の実効力のあるソフト事業を本格化していく。
観光・MICE推進課	2	国内都市友好に係る経費	S 51 -	市(直営)	国内姉妹都市・友好都市等との交流促進を図る。	国内姉妹都市・友好都市と相互のイベント出張等を実施する。	交流事業の実施	実施	実施	一般	180	—	0	0.1	0.1	イベントなどの交流件数	3件	0件	3件	3件	コロナ禍前、直近3か年の実績の平均値を目標値とした。	2件	B	A	コロナウイルス感染症の影響により、他都市でのイベントは中止となったが、静岡産業フェアに佐久市、上越市が来静し、PR及び物販を行い、交流が図られた。	コロナの影響により、交流事業が停滞気味ではあるが、交流人口の拡大のため、姉妹都市交流を引き続き深めていく。
観光・MICE推進課	3	国内都市友好に係る経費(聖一国師顕彰事業)	H 29 -	市(直営)	聖一国師ゆかりの都市との交流を図るとともに、官民連携で設立する「聖一国師顕彰会」とともに観光交流客数の増加を図る。	聖一国師顕彰会事業による交流人口の拡大。	①事務処理の円滑な実施 ②聖一国師顕彰会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	2,365	—	2,302	0.1	0.1	聖一国師ゆかりの都市との交流件数	1件	1件	3件	3件	顕彰会の事業計画の実施件数を目標値とした。	1件	A	A	聖一国師ゆかりの寺社を公式参拝し、「清い水」を奉納するとともに、福岡市博物館で開催されたふじのくに・しずおかデーに出展し本市の魅力をPRした。	姉妹都市等からの観光交流客数の増加につなげるため、引き続き官民連携で情報発信を行うとともに、本市の魅力をより効果的に発信できるよう、出展・プロモーション方法の検討を行う。
観光・MICE推進課	4	滞在型観光推進事業補助金	S 42 -	補助等(交付先)	滞在客誘客促進のため、独自で誘客事業を実施している静岡及び清水ホテル旅館組合に補助金を交付し、更なる事業効果の拡大を図る。	静岡及び清水ホテル旅館組合に補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②滞在型観光推進の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	314	—	174	0.1	0.0	実施事業数	8件	10件	12件	12件	令和3年4月1日に提出された事業計画書に記載されていた事業数を目標値とした。	7件	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響の中で目標を下方修正しながらも、コロナ禍においても実施できる事業について検討を進め、目標値に近い事業数となった。	コロナ禍においても有効な事業を検討し、必要に応じて助言するなどして支援する。
観光・MICE推進課	5	国民保養温泉地プロモーション事業	H 29 -	市・補助等(直営・交付先)	国民保養温泉地「梅ヶ島温泉郷」の情報を広く発信するとともに、賑わい創出のためのイベントを支援することで、官民連携で梅ヶ島地区への誘客促進を図る。	①国民保養温泉地協議会総会等の開催 ②梅ヶ島温泉郷ライトアップ事業の支援	①総会及び記念イベントの実施 ②梅ヶ島温泉郷ライトアップ事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①未実施 ②実施	一般	1,800	—	300	0.1	0.0	来場者数	1,700人	1,634人	2,704人	2,656人	コロナ流行後の昨年度並みの実績を目標とした。	1,346人	B	A	新型コロナウイルスの影響により、国民保養温泉地協議会総会及び記念イベントは中止となったが、ライトアップイベントについては、感染防止策をとりながら開催することができた。	ライトアップについては、地域住民と連携しながら事業を進め、イベントの周知を行う。総会及び記念イベントについては、令和4年度に開催することとなったため、地元と連携し、梅ヶ島の魅力を全国に向けて発信する。
観光・MICE推進課	6	静岡県中部・志太様原地域連携DMO	H 27 -	補助等(交付先)	静岡県中部5市2町(静岡市・島田市・焼津市・藤枝市・牧之原市・吉田町・川根本町)の広域連携のもと、当地域の「観光目的地」としての目的地想起率を高め、来訪者数を増加させるとともに、戦略に沿った観光商品の開発を事業者とともに進め、観光消費や宿泊の拡大を図る。	地域連携DMOであるが企画観光局が主体となり、次の事業を実施する。 ①戦略に基づく商品開発とモニターテスト ②既存資源の情報発信 ③効果測定、市場調査	①負担金交付事務の円滑な実施 ②庁内の連絡調整	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	99,800	—	99,800	1.0	0.0	①Learn事業体験人数 ②Tea事業(茶の間)体験人数 ③Sea事業参画事業者数	①2,200人 ②2,393人 ③5,200人 ④15店舗	①313人 ②2,393人 ③10店舗	—	—	DMO事業で実施する3つの戦略(Learn、Tea、Sea)に沿った観光コンテンツの実施状況を目標値とした。 ※従前の指標であった「静岡市内宿泊客数(3次総目標値)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の状況が不透明な面があるため、別の指標に改めることとした。	①672人 ②5,275人 ③15店舗	①672人 ②3,054人 ③15店舗	①C ②C ③A	新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客が減少し目標値の達成はできなかった事業もあるが、その影響を除けば、SNS等を活用した情報発信、Learn、Tea、Seaの3つの事業を軸に、商品・コンテンツ開発等の実施はできた。	3つの事業を効果的に実施していくため、周辺市町との連携や情報共有とともに、来訪者や事業者の調査分析を行う観光のシンクタンク機能の確立が課題。このため、令和4年度は、各種調査や統計等のデータを集約・分析した「観光レポ」を作成し、5市2町が効果的な観光振興事業を展開できるよう支援を行う。
観光・MICE推進課	7	静岡県観光協会等負担金	-	補助等(交付先)	観光振興に関する広域的な団体と連携して事業を推進することにより観光誘客を図る。	観光振興に関する広域的な団体に対し、会費等を負担する。	①事務処理の円滑な実施 ②観光関係団体等の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	6,902	—	6,753	0.1	0.0	各団体の円滑な運営・事業実施	実施	実施	実施	実施	広域的な連携を図る観光事業実施団体への負担金であり、各団体が円滑かつ効果的に事業を実施することが、本市への観光誘客・観光交流人口の拡大及び地域経済の活性化につながるため。	実施	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業実施の制約がありながらも各団体の事業が効果的に実施されたため。	広域的な連携による観光誘客策を効果的・効率的に実施することが課題。各団体が実施する事業の効果を検証し、より効果の高い事業を選択できるよう、各団体事務局や関連自治体との連携と情報共有を図る。
観光・MICE推進課	8	観光案内所運営事務	H 19 -	補助等(交付先)	観光案内所において観光地や宿泊施設、地域資源等の情報発信を行うことにより都市イメージ向上、観光振興及び地域活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局の静岡駅及び清水駅前観光案内所運営事業に対し、補助金を交付する。	①事務事業の円滑な実施 ②観光案内所の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	24,082	—	24,082	0.1	0.0	案内人数	40,000人	37,362人	118,970人	179,870人	新型コロナウイルスによる影響が不透明であり、目標値は前年と同様の数値に据え置いた。	41,018人	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により観光案内所を閉鎖した期間があったものの、案内人数は目標値を上回り、感染症対策を講じたうえで適正な運営ができた。	静岡駅構内の2か所の案内所がそれぞれ効果的に機能するよう、利用状況を踏まえ、あり方を検討し、施設管理者と協議を行う。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)					成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)		⑧事業費				⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)					⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					実績値	達成度		
観光・MICE推進課	9	観光宣伝事業補助金	H19-	補助等(交付先)	地域資源を活かした観光客の誘致を推進し、地域経済の活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局の観光宣伝事業に対し、補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②観光宣伝事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	10,794	—	10,794	0.1	0.0	観光展等出展数	5回	5回	20回	20回	新型コロナウイルスによる影響が不透明であり、目標値は前年度と同様の数値に据え置いた。	7回			S	A
観光・MICE推進課	10	するが企画観光局運営費補助金	H19-	補助等(交付先)	地域資源を活かした観光客の誘致を推進し、地域経済の活性化を図る。	公益財団法人するが企画観光局運営事業に対し、補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②するが企画観光局の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	108,778	—	108,778	0.1	0.0	団体の円滑な運営支援	実施	実施	実施	実施	するが企画観光局が本市のパートナーであり、強力で連携するため、団体の円滑かつ安定的な運営を実施することを目標とした。	実施	A	A	市外郭団体経営計画書に基づき、団体の円滑かつ安定的な運営が図られた。	観光専門組織としての人材確保・人材育成が課題。経営計画の着実な実行、必要に応じて適宜、見直しを実施する。
観光・MICE推進課	11	中央日本総合観光機構負担金	H18-	補助等(交付先)	東海、北陸、信州各地域が相互に連携し広域観光の推進を図ることにより、観光客の誘致・交流人口の拡大を図る。	広域観光の推進を図ることを目的に中央日本総合観光機構に対し、会費等を負担する。	①事務処理の円滑な実施 ②当機構の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,500	—	1,500	0.1	0.0	当機構の円滑な運営・事業実施	実施	実施	実施	実施	広域的な連携を図る当機構への負担金であり、当機構が円滑かつ効果的に事業を実施することが、本市への観光誘客・観光交流人口の拡大及び地域経済の活性化につながるため。	実施	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、訪客データベースの構築など、今後の誘客促進につながるデータの収集が可能になった。	9県3市の広域的な枠組みの中で、本市の交流人口増加を図れるかが課題。当機構のスケールメリットを生かし、海外への情報発信を主とした、インバウンド増加を図る。また、当機構の事業を積極的に活用し、本市のPR機会を創出する。
観光・MICE推進課	12	海外プロモーション事業	H21-	市(直営)	本市の知名度や来静意欲の向上、将来的な交流促進を図り、集客交流都市の実現を目指す。	①韓国・静岡市旅行ブログによる情報の受発信 ②台湾・旅行商品販売促進事業 ・旅行社招聘事業 ・ブロガーの招聘事業 ・台北マラソン交流事業	①事務処理の円滑な実施 ②ブログ等の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②未実施	一般	①2,388 ②3,229	—	2,897	0.7	0.0	①韓国ブログアクセス数 ②台湾旅行商品販売促進事業申請件数	①41,000件 ②1件	①40,665件 ②0件	①166,944件 ②2件	①112,926件 ②4件	目標値の見直しを行い、韓国ブログはコロナ流行後である昨年度並みとすること、台湾向け事業は1件以上実施することを目標値とした。	①35,853件 ②未実施	①B ②-	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、富士山静岡空港の海外便が停止されたため、海外に向いての旅行商品販売促進事業は実施できなかったが、韓国ブログについては、事業が適正に実施され、目標値に近いアクセス数となった。	海外旅行ができない状況の中で、本市への関心の維持が課題である。本市への関心を維持する継続的な情報発信に努める。
観光・MICE推進課	13	富士山静岡空港利用促進協議会負担金	H27-	補助等(交付先)	県、県内市町、民間事業者との連携により、大規模社会資本である富士山静岡空港の利用促進を図ることにより本市の知名度や魅力の向上を図る。	①負担金交付事務 ②運営補助	①事務処理の円滑な実施 ②富士山静岡空港利用促進協議会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	5,000	—	5,000	0.2	0.0	富士山静岡空港連携事業申請件数	1件	1件	12件	14件	新型コロナウイルスの影響が大きいため、昨年同様の件数を目標値とした。	1件	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、申請件数は停滞したが目標は達成できている。	新型コロナウイルス感染症の収束を見据え、空港利用に関する補助金制度の周知と、就航先との相互プロモーション活動を促進していく。
観光・MICE推進課	14	地域イベント開催事業補助金	H15-	補助等(交付先)	地域社会の連帯及び協調の促進し、本市を訪れる観光客の増加を図る。	地域住民が連帯して開催する祭り、レクリエーション等のイベントを開催する者に対して補助金を交付する。	各地域イベントに係る補助金交付事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	1,100	—	400	0.1	0.1	補助制度活用イベントによる集客数	2,000人	1,888人	7,550人	24,238人	コロナ禍の影響によりイベント開催数が見通せないため、昨年度実績並みを目標準とした。	1,521人	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのイベントが中止となったが、4件のイベントに補助金を交付し、地域社会の連帯及び協調が図られた。	コロナを機に、イベントの開催を見送る動きがある中で、感染対策を講じたうえでイベントが継続的に実施され、賑わいの創出につながるよう、イベント主催者に働きかけを行う。
観光・MICE推進課	15	駿府浪漫バス運行業務	H12-	市(委託)	静岡中心市街地のまち歩き観光の促進と観光客の利便性向上のため、巡回バスを運行し、観光客の増加及び観光消費の活性化を図る。	自主運行バスの運行業務を委託し、円滑な運行管理と利用促進事業を行う。	年間を通じた浪漫バスの安定的な運行の実施	実施	実施	一般	18,830	—	18,830	0.4	0.1	1便当たりの利用者数	5.5人	5.2人	8.3人	10.4人	コロナ禍の影響により利用者数が見通せないため、昨年度実績並みを目標準とした。	5.9人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、バス利用者は減少しているものの、目標値は上回ることができた。	利用者低迷が課題。今後、しずてつジャストラインと調整・連携を図りつつ、利用者属性を把握し、利用促進につながるプロモーションを実施していく。
観光・MICE推進課	16	全国大会等開催補助金	H12-	補助等(交付先)	全国的規模の各種大会を誘致を促進して観光客の増加を図る。	全国的規模の大会等を開催する者に対して補助金を交付する。	各大会に係る補助金交付事務処理の円滑な実施	実施	実施	一般	33,000	—	16,356	0.1	0.5	補助対象となった全国大会等における宿泊人数	7,000人	2,200人	35,233人	33,383人	直近3か年の実績の平均値の30%を目標準とした。	10,183人	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの大会が中止となったが、補助金交付要件の緩和、感染対策に係る上乗せ補助等を行い、目標を上回ることができた。	コロナ禍前に開催されていた大会が、引き続き市内で開催されるよう主催者に働きかけを行うとともに、令和4年度についても要件緩和を継続し、MICE誘致の拡大を図る。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)					成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
		②事業事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費					⑨成果指標(アウトカム指標)							⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			実績値				達成度	
																		R2	R1	H30						当該年度の目標値の算出根拠
観光・MICE推進課	17	環駿河湾観光交流活性化協議会負担金	H 25 -	補助等(交付先)	貴重な観光資源である清水・土肥航路を活用し、環駿河湾地域を周遊する観光を促進して、同地域における交流人口の拡大及び地域活性化を図る。	環駿河湾観光交流活性化協議会が実施する、環駿河湾地域の周遊観光を促進する事業に対し、負担金を支出する。	①事務処理の円滑な実施 ②環駿河湾地域周遊観光促進事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	3,500	—	3,500	0.8	0.0	駿河湾フェリーの年間輸送人員数	93,000人	80,021人	129,756人	172,399人	(一社)ふじさん駿河湾フェリーの経営改善戦略に示す令和3年度の年間輸送人員の目標値を準用とした。	80,717人	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数は目標値を下回ったが、追加支援や各種施策を実施することで、前年度の利用客数を上回ったため。	新型コロナウイルス感染症の影響等により、周遊観光の停滞が続くと予想されるため、情報発信事業により支援を行う。
観光・MICE推進課	18	コンベンション・シティ推進事業	H 19 -	補助等(交付先)	各種会議・大会・展示会・見本市などの開催を本市に誘致することで、国内外からの誘客を図る。	公益財団法人するが企画観光局が独立行政法人国際観光振興機構と連携して実施するコンベンション推進事業に対し負担金を支出する。	①事務事業の円滑な実施 ②コンベンション推進事業の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	8,316	—	8,316	0.1	0.0	コンベンション支援件数	15件	12件	158件	176件	コロナ禍の影響によりコンベンション開催数が見通せないため、昨年度実績並みを目標値とした。	46件	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くのコンベンションが中止となったが、アフターコロナにおけるコンベンション誘致を促すため、オンライン商談会やDMによる情報提供などを積極的に行った。	新型コロナウイルス感染症の影響によりコンベンションの実施方法が変化の中で、リアルとオンラインを併せたハイブリッド型の実施にも対応できる誘致施策を検討する。
観光・MICE推進課	19	駿河湾フェリー運航支援事業	H 31 -	補助等(交付先)	駿河湾フェリーの運航を継続させることで、環駿河湾地域を周遊する観光を促し、同地域における交流人口の拡大及び地域活性化を図る。	県及び環駿河湾地域3市3町で構成する(一社)ふじさん駿河湾フェリーの運営費の一部を負担する。	①事務処理の円滑な実施 ②駿河湾フェリーの円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	39,100	—	39,100	0.5	0.0	駿河湾フェリーの年間輸送人員数	93,000人	80,021人	129,756人	172,399人	(一社)ふじさん駿河湾フェリーの経営改善戦略に示す令和3年度の年間輸送人員の目標値を準用とした。	80,717人	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や原油価格高騰等により、厳しい経営状況が続くと予想されるため、支援の在り方を再検討するとともに、経営改善計画が確実に実行されるよう、助言・支援を行うとともに情報発信事業により支援を行う。	新型コロナウイルス感染症の影響の長期化や原油価格高騰等により、厳しい経営状況が続くと予想されるため、支援の在り方を再検討するとともに、経営改善計画が確実に実行されるよう、助言・支援を行うとともに情報発信事業により支援を行う。
観光・MICE推進課	20	静岡型体験観光推進事業	H 17 -	補助等(委託・交付先)	小中学生等の体験教育旅行に関する企画、誘客、受入を推進し、観光誘客と交流促進を図る。	①体験型教育旅行のプログラム作成 ・モニターツアーの実施 ②体験型教育旅行の誘致活動 ・首都圏、山梨、長野への営業	①モニターツアー実施件数 ②国内学校等への営業件数	①3件 ②15件	①3件 ②12件	一般	7,129	—	5,087	0.1	0.2	しずおか体験教育旅行会員施設利用者数	65,000人	65,552人	47,171人	47,963人	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、従来の目的地から変更する先として選ばれることが想定され、昨年度に引き続き高い水準での来訪が見込まれることから、昨年度と同水準を目標値とする。	94,118人	S	S	新型コロナウイルス感染症の影響により、首都圏を目的地とした教育旅行が敬遠され、近隣県を訪問する傾向が強まった。これをチャンスと捉え、関係者と連携し、山梨県、神奈川県等へ積極的な営業活動やモニターツアーを実施した。	今後も教育旅行の行先として継続的に選ばれることが課題。そのため、教育旅行のニーズの変化を的確に把握し、本市でしか体験できないコンテンツの、効果的なプロモーションやモニターツアーを実施し、継続的な需要獲得に努める。
観光・MICE推進課	21	伝統芸能振興事業	H 24 -	補助等(交付先)	伝統芸能振興会に芸妓芸能振興事業補助金を交付する。	①補助金交付事務 ②運営補助	①事務処理の円滑な実施 ②伝統芸能振興事業の円滑な運営支援	実施	実施	一般	6,000	—	2,856	0.1	0.2	申請件数	80件	85件	82件	119件	新型コロナウイルス感染症拡大の影響が見込まれるが、一方で補助金交付要件の緩和を行うことを鑑み、前年度と同程度の件数を目標とした。	56件	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により大人数での会合が催されず申請件数が落ち込んでいたが、補助金交付要件を緩和することで、芸妓芸能の利用促進を行った。	芸妓芸能が広く認知され、安定的に利用されることが課題である。そのため、情報発信に努めるとともに、補助金交付要件緩和を継続し、利用しやすい環境を継続する。
観光・MICE推進課	22	大河ドラマ(渋沢栄一)を活用した周遊促進事業	R 3 - R 3	市(直営)	大河ドラマ「晴天を衝け」の放送に合わせて、関連するスタンプラリー企画を実施することで、市内周遊を促す。	静岡市の近代歴史を学べるスタンプラリーを実施する。	スタンプラリーの実施	実施	実施	一般	1,446	—	1,432	0.1	0.0	スタンプラリー参加者数	1,000人	—	—	—	静岡県中部圏域内の小学生とその保護者の参加を想定し、目標値とした。 ※静岡県中部圏域内の小学生とその保護者約10,000人×1%	1,264人	S	A	緊急事態宣言発令による中断期間があったものの、渋沢栄一と幕末の静岡が学べるWebスタンプラリーに目標を上回る参加があり、市内の周遊観光が促された。	単発なイベントで終わらせるのではなく、周遊観光のメニューの一つとして継続的に市内周遊させる仕組みづくりが課題。歴史をテーマにストーリー性のある魅力的なモデルコースの造成について検討する。
観光・MICE推進課	23	マイクロツーリズム推進事業	R 3 - R 3	補助等(交付先)	市内宿泊件数の増加及び市内周遊の促進を図る。	宿泊事業者と連携した宿泊型スタンプラリー、交通事業者等と連携した企画乗車券等の割引を実施する。	①宿泊型スタンプラリーの実施 ②企画乗車券等の割引	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	100,000	—	29,147	1.0	0.0	①参加者数 ②割引件数	①10,000人 ②23,070人	—	—	—	予算要求時の想定人数・件数を目標値とした。	①7,470人 ②13,230人	C	A	新型コロナ流行に伴い、事業を中断したり、当初想定していた期間(夏休み等)の客層を取り込めなかったりと、参加者数等は伸び悩んだが、宿泊事業者・交通事業者・地場産品の生産者への支援として一定の経済効果を生み出した。	参加者が少なかった理由として、エリア分けが細かく、達成難易度が高かったことが想定されることから、宿泊事業者・交通事業者・地場産品の生産者への支援として一定の経済効果を生み出した。
観光・MICE推進課	24	東海道2峠6宿街道事業	-	補助等(交付先)	東海道2峠6宿において、地域の魅力を多様な世代で共有し、楽しめる新たなまち歩き観光の価値を創出し、街道観光を確立する。	静岡二峠六宿街道観光協議会へ負担金を支出し、街道観光を推進する。	①事務処理の円滑な実施 ②二峠六宿街道観光協議会の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	600	—	600	0.1	0.0	歴史や文化を身近に感じることができると感じるまちだと思ふ市民の割合	63.0%	61.8%	64.1%	62.6%	第3次総合計画における、「歴史や文化を身近に感じることができると感じるまちだと思ふ市民の割合」の数値設定より算定。	63.3%	A	A	静岡二峠六宿街道観光協議会と意見交換を随時行うとともに、協議会が行う普及啓発事業を支援することで、目標値を上回ることができた。	「駿州の旅日本遺産」と一体となって事業を進めていく必要がある。当協議会を含めた関係団体との意見交換の場を定期的に設けることで、二峠六宿関連事業を一体的に推進していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)		⑧事業費				⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)					⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度	
観光・MICE推進課	25	東海道歴史街道まち歩き推進事業	H 28 -	補助等(市・交付先)	東海道歴史街道で育まれ根付いてきた地域資源を活用した、本市ならではの街道観光の確立により、観光誘客を促進し、地域経済の活性化を図る。	街道の魅力情報を発信するとともに、周遊を促すために体験商品を提供する。	①しずおか東海道まちあるきホームページの新着情報更新の実施 ②駿河 東海道おんぼくの実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	22,851	—	22,340	1.0	0.0	①しずおか東海道まちあるきホームページのアクセス数 ②駿河 東海道おんぼくにおける掲載プログラム数	①143,000件 ②20PG	①136,000件 ②—	①27,491件 ②44PG	①— ②58PG	①アクセス数5%増を目標値に設定 ②駿河 東海道おんぼくにおける掲載プログラム数をコロナ禍の影響を考慮し少なく設定	①176,278件 ②44PG	①S ②S	A	①フリーペーパーへの掲載、JR東海道線の中吊り広告や主要駅でのポスター掲示、IAIスタジアムのビジョン等での放送など、ホームページの存在を積極的に周知することができた。 ②コロナ禍での開催となったが、少人数や小規模のプログラムでも参加できる事業者のプログラム造成を支援し、前回(R元年度)と同数のプログラム数を確保できた。	①より一層のアクセス増に向けWEBサイト閲覧者の約半分を占める25歳から44歳の層をターゲットにしたフリーペーパーでのPRに加え、その他年代に対しても、広報紙や公共交通機関の広告等を活用したPRを実施していく。 ②持続可能な体制の構築に向け、事業者同士による意見交換の場の設置など、宿場内の連携を促進していく。
観光・MICE推進課	26	お堀の水辺活用事業(葵舟)	H 31 -	補助等(市・交付先)	駿府城公園周辺エリアにおける新たな歴史観光コンテンツの一つとして、静岡都心の賑わいを創出するとともに、「歴史文化のまちづくり」を促進する。	運営主体者と協働し、集客につなげる周知啓発に努め、葵舟の安定的な運航を図る。	①補助金支出 ②周知啓発の実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	10,173	—	10,102	1.4	0.0	乗船客数	8,000人	—	—	—	運航事業者の目標乗船客数を目標値に設定した。	5,335人	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、目標値には届かなかったものの、運休や定員減での運航を考慮した乗船率は目標である72%を上回ったことから、一次評価はAとした。	乗船客の確保に向け、運航事業者の広報活動を支援するほか、歴史博物館や大河ドラマ館の開館に向けた体制を運航事業者と協議していく。
観光・MICE推進課	27	駿州の旅日本遺産事業	R 2 -	補助等(交付先)	地域の歴史、文化及び景観等の資源を活用した地域間交流と街道観光の推進に関する事業を通じて、交流人口の拡大を図り、地域経済の活性化を図る。	本事業を実施する駿州の旅日本遺産推進協議会に対し負担金を支出するとともに、成果を高めるため、本市事業との連携を図る。	①ガイド養成、シンポジウム開催、観光商品開発等の実施 ②パンフレットの配付、市広報媒体を活用した周知	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,950	—	4,950	1.5	0.0	歴史や文化を身近に感じることができると感じるまちだと思える市民の割合	63.0%	61.8%	—	—	第3次総合計画における、「歴史や文化を身近に感じることができると感じるまちだと思える市民の割合」の数値設定より算定。	63.3%	A	A	ガイド養成事業(5回)、シンポジウムの開催(1回)、商品開発事業(2品)に加え、市広報媒体等を利用した事業PRにより、市が誇る歴史資源(東海道二峠六宿)を広く発信することができた。	ボランティアガイドや商品開発等に誰もが参画しやすい環境づくりを進めるとともに、街道観光の将来の担い手となる子どもたちへの普及啓発に取り組み、郷土愛の醸成を図っていく。
観光・MICE推進課	28	観光案内サイン整備事業	H 30 -	市(直営)	訪日外国人観光客の受入れ環境整備。まち歩き観光に寄与する目的の案内サインの設置状況を調査し、観光案内サインの多言語化整備	①観光案内サインの設置状況の調査 ②観光案内サインの多言語化整備	①現状調査 ②修繕工事	①実施(丸子・宇津ノ谷地区) ②実施(由比・蒲原地区)	①実施 ②実施	一般	3,182	—	1,843	0.8	0.1	調査および整備地区数	2地区	2地区	2地区	3地区	整備計画に準拠した観光案内サインの設置状況調査および整備地区の実績値を目標とした。	2地区	A	A	整備計画に基づき、由比・蒲原エリアの整備及び令和4年度の整備に向けた丸子・宇津ノ谷地区の調査を予定通り実施した。	観光案内サインの整備に当たっては、日本遺産(東海道まち歩き)、夜景、歴史文化、清水港みなど色彩計画など、他の事業や計画との連携を意識して、当該エリアの周遊につなげるという視点で取り組む必要がある。
観光・MICE推進課	29	東海道広重美術館管理運営事業	H 25 -	市(委託)	東海道五十三次を代表作とする歌川広重の浮世絵を所蔵し、市民・観光客に広く閲覧することで、文化の振興と、街道観光に寄与する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図る。また、広重美術館及び由比本陣施設指定管理者とともに集客対策を進める。	①指定管理事務の実施 ②連絡会議の開催 ③六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年6回以上 ③年4回以上	①実施 ②11回 ③4回	一般	40,145	—	40,142	0.4	0.1	来場者アンケートの満足度(5段階評価で4以上の割合)	80.0%	83.7%	73.2%	73.4%	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルスの収束が見込めない中、影響を考慮した目標値の設定が困難であるため、業務仕様書に設定されている来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定。	84.2%	S	A	感染症対策を踏まえた安全な施設運営と浮世絵の魅力伝える展示企画との連携を通じ、来場者の満足度向上に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ来場者数の増加に向けて情報発信の強化に取り組む。	アンケート結果や利用者の声を参考にしつつ、魅力的な展示企画や事業の実施、同敷地内の由比宿交流館との連携を通じ、来場者の満足度向上に努めるとともに、新型コロナウイルス感染症の影響により落ち込んだ来場者数の増加に向けて情報発信の強化に取り組む。
観光・MICE推進課	30	日本平山頂部周辺美化推進事業	-	市(直営)	日本平山頂の美観の維持	日本平山頂の県有地へ季節の花の植苗	①植栽計画の検討 ②花の植苗	①実施 ②12回以上	①実施 ②14回	一般	910	—	889	0.1	0.0	花苗の植栽による美観の維持	実施	実施	実施	実施	季節に応じた花苗を植栽することにより美観を維持する。	実施	A	A	当初の予定通り実施できた。	倒木や施設の損傷等、日頃より問題個所がないか注意が必要である。
観光・MICE推進課	31	観光地及び観光施設維持管理事業	-	市(直営)	各地域の特色を活かした観光地を保全し、利用者への満足度向上を図る。	施設の維持管理を行い、施設の特性を活かした快適な空間を実現する。	①委託事務の実施 ②必要に応じた修繕	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	31,572	—	27,535	0.5	0.0	施設瑕疵による事故発生件数	0件	0件	0件	0件	適切な施設管理が目的の事業であるため、管理不行き届きによる事故の発生をなくすことを目的とした。	0件	A	A	適切な施設の維持管理を行った結果、施設瑕疵による事故が発生しなかった。	施設瑕疵による事故が発生しないように、適切な施設の維持管理及び不具合が指摘された際の早期対応を実施していく。

①所属 課名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工				⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度				
観光・MICE推進課	32	三保真崎広場管理運営	H16-	市(直営)	三保地区を訪れる観光客の体験メニューを多角化することにより、利用者層の多様化と滞在時間の増加を図る。	施設の維持管理運営及び集客対策を行う。	①維持管理業務の実施 ②利用団体や旅館等へのチラシ配布やPR	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,774	—	4,673	0.4	0.3	来場者数	16,400人	13,357人	14,633人	16,909人	適切な感染症対策を講じたうえでポストコロナにおける利用者数の回復・増加を図り、令和3年度においては令和2年度を除く直近3か年の来場者数の平均値までの回復を目標とした。	13,699人	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響もあり来場者数は目標を達成できなかったものの、令和2年度の来場者数を維持した。	施設利用者の多くが市内在住者であるが、当該施設は観光施設という位置付けであるため、市外、県外からの利用促進を図るためのプロモーションに取り組む必要がある。	
観光・MICE推進課	33	清水港船宿記念館管理運営	-	市(委託)	次郎長翁の功績と清水地区の歴史、文化を紹介することで、清水港エリアのまち歩き観光の拠点として活用する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の行う事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図ると共に、情報を発信し集客を図る。	①指定管理事務の実施 ②六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年4回以上	①実施 ②4回	一般	8,274	—	8,243	0.4	0.0	来場者アンケートの評価(5段階で4以上)	80.0%	94.2%	92.9%	94.3%	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルスの収束が見込めない中、影響を考慮した目標値の設定が困難であるため、業務仕様書に設定されている来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定。	88.8%	S	A	新型コロナウイルス感染症の影響もあり来場者数は例年を下回ったものの(R3:4,330人)、感染症対策を踏まえた安全な施設運営と事業内容及び来場者対応の努力の結果、来場者から高い満足度を得られた。	コロナ禍においてマイクロツーリズムが見直されてきた中で近隣地域における認知度向上、SNS等を活用した次郎長の功績の発信、関連施設との連携、日本家屋を知らない世代への建築物としての魅力発信、学校の校外学習の場として活用等の取組により、来場者を増やしている。	
観光・MICE推進課	34	御殿山等維持管理事業	-	市(直営)	御殿山等、蒲原地区観光施設の適切な管理による観光振興を図る。	御殿山等由比・蒲原地区の観光施設の維持管理(蒲原支所と連携を図る)	①維持管理業務の実施 ②必要に応じた修繕	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	7,364	—	7,140	0.4	0.0	施設の瑕疵による事故発生件数	0件	0件	0件	0件	適切な施設管理を実施し、管理不行き届きによる事故の発生をなくすことを目的とした。	0件	A	A	適切な施設の維持管理を行った結果、施設瑕疵による事故が発生しなかった。	蒲原支所や地元との情報共有を進めながら、適切な施設管理を行う。	
観光・MICE推進課	35	興津坐漁荘記念館管理運営事業	-	市(委託)	興津地区および周辺地域を結びつけ、観光コースの拠点として地域の活性化と観光振興を図る。	施設の維持管理運営及び観光情報を発信し集客対策を行う。	①事務の実施 ②六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年4回以上	①実施 ②4回	一般	8,656	—	8,556	0.4	0.0	来場者アンケートの評価(5段階で4以上)	80.0%	-	-	-	例年、直近3か年の来場者数の平均値を目標値としているが、新型コロナウイルスの影響を考慮した目標値の設定が困難なため、今年度より来場者アンケートを実施し、その項目中、来場者の満足度を目標値として設定した。	89.6%	S	A	新型コロナウイルス感染症の感染拡大による休館期間もあったが、来場者数は前年度を上回った(R3:5,463人)。感染症対策を踏まえた安全な施設運営や来場者対応が、高い満足度に繋がった。	東海道の興津宿に位置する観光拠点として、来館者の増加に向けた施設自体の魅力の発信に加え、周辺の施設と連携した周遊促進や東海道の情報発信を図っていく。	
観光・MICE推進課	36	観光駐車場管理運営事業	-	市(委託)	中心市街地等へのバスによる来訪者への利便性向上を図る。	施設の維持管理運営	事務の適正な実施	実施	実施	一般	6,402	—	6,215	0.2	0.2	①昼間駐車場利用台数 ②夜間駐車場利用台数	①1,827台 ②262台	①1,480台 ②65台	①2,459台 ②428台	①3,003台 ②395台	年度前半は新型コロナウイルスの影響により観光バスの利用数自体が減少することが見込まれるため、目標値については昨年度目標値の半数とし、年度後半は昨年度と同等の目標値として令和3年度の目標を設定した。	①1,764台 ②135台	B	A	観光需要減の影響もあり目標値に届かなかったが、令和2年度に比べ復調傾向にある。また、施設の維持管理等の業務は適正に実施できた。	歴史博物館閉館及び大河ドラマの放送による観光バス駐車場の需要の増加を見込み、近隣施設と連携していく必要がある。また、当該地の民間活用方針の進捗状況を確認し、移転の選択肢を含めた情報収集を進める。	
観光・MICE推進課	37	由比本陣記念館管理運営事業	-	市(委託)	由比地区の観光・産業を案内するとともに、地域活動の拠点として活用する。	施設の維持管理運営を行う。また、指定管理者の事業により、施設の高度利用と魅力づくりを図る。由比本陣施設及び広重美術館指定管理者とともに集客対策を進める。	①指定管理事務の実施 ②連絡会議の開催 ③六宿観光ガイドの発行	①実施 ②年6回以上 ③年4回以上	①実施 ②11回 ③4回	一般	18,170	—	18,130	0.4	0.1	来場者アンケートの評価(5段階で4以上)	80.0%	85.8%	83.0%	83.0%	業務仕様書に設定されている目標のうち年間利用者数については新型コロナウイルスの影響を考慮した数値が設定が困難であるため、来場者アンケート満足度の目標値を指標として設定した。	81.0%	A	A	特に展示内容に対する評価は高かったものの、スタッフ対応の評価が昨年度に比べ低く、目標値をわずかに上回る結果となった。引き続き利用者満足のための施設運営に努める必要がある。	由比地域の地域振興及び観光交流の拠点として、歴史文化や東海道まち歩きを意識した事業実施、広報宣伝の創意工夫が必要である。また、同敷地内の東海道広重美術館と連携して、利用者満足度向上に努める。	
観光・MICE推進課	38	地域観光施設整備事業補助金	-	市(直営)	自治会等地域活動団体が行う観光事業(施設整備事業)の費用の一部を補助することにより、地域における観光振興の一助とする。	地域団体が設置する観光施設整備事業経費の一部補助	①交付件数 ②報告書確認件数 ③検収・確定件数	①1件 ②1件 ③1件	①1件 ②1件 ③1件	一般	2,357	—	921	0.1	0.0	利用団体	1団体	0団体	1団体	1団体	当該補助金は、地域における観光施設整備を促進し、観光と地域の振興をより図ることを補助金交付の主旨としている。	1団体	A	A	市ウェブサイトへの補助金制度情報の掲載など広報を見直し、最終的に補助金交付に至る実績が得られた。	本補助金の有効活用が図られるべく広報するとともに、申請に至るまでの事前相談から補助金交付決定まで、十分な説明・支援を行っていく必要がある。	
観光・MICE推進課	39	観光案内板等多言語化整備事業	-	市(直営)	外国人誘客を推進し、受入態勢の整備による来訪客の満足度向上を図る。	観光案内板を多言語表示対応に板面変更、または更新を行う。	エリア内の看板整備件数	3か所	6か所	一般	2,033	—	1,379	0.2	0.0	実施エリア数	1地区	2地区	2地区	1地区	外国人旅行者の受け入れ態勢の充実を図るため、整備計画に準拠した実施エリア数を目標とした。	2地区	S	A	当初予定していた清水駅周辺エリア(JR清水駅東口、江尻地区の看板修繕)に加え、日本平エリア(駒越地区の看板修繕)についても追加で実施した。	観光案内板の多言語化整備に当たっては、周遊促進や魅力発信を意識して行うとともに、整備計画を越え地区の看板修繕についても追加で実施した。	
観光・MICE推進課	40	海水浴場維持管理事業	-	市(直営)	海水浴場等の開設に伴い、海水浴客の安全を図る。	海水浴場の安全管理や安全対策、仮設施設等の維持管理を実施する。	①事務の実施 ②事故の抑制及び緊急時の適切な処置(7月～8月)	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	15,336	—	14,410	0.4	0.2	施設瑕疵による事故発生件数	0件	0件	0件	0件	適切な施設管理を実施し、管理不行き届きによる事故の発生をなくすことを目標とした。	0件	A	A	適切な安全対策及び管理を行い、運営上の瑕疵による事故は起きなかった。	海水浴場運営における安全対策の取組と合わせて、周辺エリアの活性化・開発にかかわる企業・団体・行政機関と連携・情報共有し、集客増に取り組んでいく。	

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠				実績値	達成度
観光・MICE推進課	41	団体旅行等誘致事業	R 3 -	補助等(交付先)	団体旅行客の需要を獲得することで、観光関連産業をはじめとする地域経済の活性化を図る。	静岡市を目的地とする団体旅行を催行する旅行業者に補助金を交付する。	補助金交付の円滑な実施	実施	実施	一般	60,000	—	11,993	0.3	0.0	補助金交付決定バス台数	1,200台	—	—	—	延べ25事業者程度の活用を見込んで設定した。	916台	B	A	まん延防止等重点措置が適用され、補助申請期間を3週間程度短縮したことにより目標値に至らなかったため、達成度はBとしたが、一次評価はAとした。	日帰り・立寄りツアーでの活用が多く見られたため、宿泊ツアーの催行を促す制度として見直しを行ったうえで、支援を継続する。
観光・MICE推進課	42	地域型宿泊誘客事業	R 3 -	市(直営・委託)	各宿泊事業者等の課題及び特性に応じた主体的な取組を支援する。	市内宿泊事業者等が中心となった団体が実施する誘客事業等に対し補助金を交付する。	補助金交付の円滑な実施	実施	実施	一般	150,000	50,000	79,091	0.5	0.0	補助金交付決定団体数	8団体(延べ)	—	—	—	補助の対象として見込まれる全ての団体への交付決定を目標とした。	5団体(延べ)	C	B	まん延防止等重点措置の影響等により申請を見送った団体があったことにより、目標値に至らなかったため、達成度はCとしたが、一次評価はBとした。	市内宿泊事業者から、事業継続に向けた要望が提出されているため、より実効力のある制度として見直しを行ったうえで、支援を継続する。
観光・MICE推進課	43	新型コロナウイルス感染症対策奨励金(宿泊施設)	R 3	市(直営・委託)	市内宿泊施設における観光客の安全安心な受入環境整備を促進する。	静岡県が実施する「ふじのくに安全・安心認証(宿泊施設)」を早期取得した市内宿泊施設に奨励金を交付する。	奨励金交付の円滑な実施	実施	実施	一般	5,300	—	5,300	0.2	0.5	奨励金交付施設	150施設	—	—	—	認証制度の対象となりうる全ての施設への交付決定を目標とした。	106施設	B	A	コロナ禍による休業施設や認証取得の意向がない施設等があったことにより、目標値に至らなかったため、達成度はBとしたが、認証取得施設はほぼ全てに対し交付できたため、一次評価はAとした。	市内宿泊施設における、早期の受入環境整備を支援することができたため、宿泊客の回復に向けて情報発信等の連携を強化していく。
国際交流課	44	国際化推進事業	S 34 -	市(直営)	本市の姉妹都市・友好都市、その他海外都市等との国際交流を行い、市民の国際理解を促進するとともに、市の国際化を推進する。	①姉妹都市提携周年記念事業(オマハ・カンス) ②第7回日仏自治体交流会開催に向けた調整 ③CLAIR及び外務省主催のセミナー・ツアー受入に向けた調整 ④国際交流員(CIR)活用	①親善使節団派遣・受入に向けた調整 ②日仏自治体交流会開催に向けた調整 ③セミナー・ツアー受入に向けた調整 ④国際交流員の配置	①2件 ②1件 ③2件 ④3名	①2件 ②1件 ③2件 ④3名	一般	11,391	—	385	1.5	1.5	公式訪問者受入人数(本課対応分)	120人	6人	64人	135人	新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に落ち込んだ令和2年度を除外し、平成29年度～令和元年度の平均値で算出した。	108人	A	A	新型コロナウイルス感染症による海外渡航制限の影響で、予定されていた使節団来静や視察ツアー等が中止となり目標値に届かなかった。一方、在日の各国大使館等の公式訪問の受入については可能な範囲内で実施したほか、海外とはオンラインでのイベントや式典開催等、新たな取組を通して公式訪問対応を行った。	今後の新型コロナウイルス感染症の海外渡航への影響をしっかりと見据え、状況に応じて臨機応変に対応しながら事業を推進する必要がある。今後も、オンライン方式や直接の対面交流との併用であるハイブリッド交流を積極的に活用し、交流を停滞させることなく前に進めていく。
国際交流課	45	静岡市国際交流協会補助金	H 1 -	補助等(交付先)	市の国際交流及び多文化共生の促進を図るため、国際化推進に資する事業を行う(一財)静岡市国際交流協会に対して、補助金を交付する。	補助金交付事務	補助金交付	1件	1件	一般	45,771	—	42,278	1.0	0.0	(一財)静岡市国際交流協会の各実施事業満足度の平均値	90%	94%	90%	88%	同協会が策定した「経営計画」の進捗管理において毎年度実施するアンケート調査結果目標値を指標とした。	96%	S	A	コロナ禍においても、三密を回避する等感染対策を行った上で英語講座や文化庁補助事業の日本語教室を継続し、高い満足度を得ることができた。	法人化2年目である令和3年度の決算において244万円余の一般正財財産増を果した。令和4年度以降も引き続き経営体質の改善、事業の質の向上を図れるよう支援していく。
国際交流課	46	多文化共生推進条例策定事業	R 3 - R 4	市(直営)	国籍や民族などが異なる人々が互いの文化的な違いを尊重し、ともに本市で暮らすことができるよう条例の策定に向けた業務を行う。	①多文化共生協議会での審議 ②市民意見交換会の開催 ③パブリックコメントの実施	①開催回数 ②開催回数 ③パブリックコメントの実施	①4回 ②3回 ③実施	①4回 ②3回 ③実施	一般	1,701	—	974	1.5	0.5	議会上程に向けた条例案の策定	実施	—	—	—	令和4年度の議会上程に向け、市民意見聴取が概ね完了し、条例案が策定できていることを目標値として設定した。	①4回 ②3回 ③実施	A	A	計画通り、協議会等を実施し条例案が策定できている。	条例をもとにした事業を計画するために、協議会やパブリックコメントを令和4年度も実施する。
国際交流課	47	多文化共生人材育成事業	H 27 -	市(直営)	本市の国際化・多文化共生を推進するため、国際交流員等を派遣し国際感覚豊かな市民や次世代を担う人材の育成を図る。	①英語・中国語・フランス語国際交流員(CIR)を派遣し、こども園等を対象とした国際理解講座や市政出前講座の開催 ②外国人住民の地域交流を促し地域の中で多文化共生活動をすすめるサポーター養成講座の開催	①国際理解講座、市政出前講座の派遣回数 ②多文化共生サポーター養成講座の開催回数	①70回 ②5回	①90回 ②5回	一般	531	—	171	0.5	2.4	①国際理解講座の受講者満足度 ②多文化共生サポーター修了者数	①100% ②20人	①100% ②21人	①100% ②21人	①100% ②21人	①受講関係者アンケートを実施し、直近3か年の実績値から設定した。 ②令和2年度新規講座として開講し、開講当初と同数のサポーターを養成することを目標値として、設定した。	①100% ②19人	A	A	①新たに南アフリカ出身の国際交流員を加えた3名で国際理解講座を実施した。今年度から、小中学校や児童相談所も対象とし、より多くの子どもたちに受講してもらった。満足度と実施回数ともに目標値を達成できた。 ②定員20人に対して、40人から応募があり、選考した受講生20人のうち19人が講座を修了することができた。	①講師の出身国によって依頼数大幅に異なるため、1人に負担が大きくなっている。他の国を勧めたり、1人あたりの実施回数の制限をかけるなど検討する。
国際交流課	48	多文化共生啓発事業	H 27 -	市(委託)	本市の国際化・多文化共生を推進するため、市民の多文化共生意識の向上と地域交流の促進を図る。	「静岡わいわいワールドフェア」の実施	フェアの実施	実施	実施	一般	4,000	—	3,989	0.4	1.4	「多文化共生に興味を持つきっかけとなった」と回答した参加者の割合	90%	85%	95%	88%	直近3か年の実績の平均値から設定した。	96%	A	A	「静岡わいわいワールドフェア」は、11,800人が来場した。ステージパフォーマンスと屋台を再開し、感染症対策をおこないながら実施した。留学生や大学生などの若年層の参加が増え、活気あるフェアとなった。	新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、(一財)静岡市国際交流協会、運営委員会と共に、静岡わいわいワールドフェアの企画を検討していく。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)		⑧事業費			⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)				⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容						
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値				直近3か年の実績値			実績値	達成度	
歴史文化課	49	歴史文化推進事業	H28-R4	補助等(市・交付先)	歴史文化のまちづくりを推進するため、家康公が愛したまち静岡の情報を発信し、市内の歴史資源への関心を高める。	徳川みらい学会等と連携した家康公顕彰事業や地域の歴史を研究する事業の実施	徳川みらい学会と連携した家康公顕彰事業の実施	2回/年	2回/年	一般	2,428	—	2,385	1.0	0.0	徳川みらい学会と共催で実施する講演会の入場者数のうち市が募集した入場者数	200人	202人	316人	314人	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、施設の入場者が半分に制限されていることから、一昨年度の募集人数(400人)の半分程度の入場者とした。	173人	B			B
歴史文化課	50	朝鮮通信使発信事業	H27-	市(直営・委託)	ユネスコ「世界の記憶」へ登録された「朝鮮通信使に関する記録」やそれに関連する資料等を、市内外へ向けて広く発信し、市民の誇りの醸成へと繋げる。	釜山文化財団等との交流事業と連携した朝鮮通信使講座事業の実施	朝鮮通信使講座事業の実施	3回/年	3回/年	一般	450	—	447	0.5	0.5	講座参加者満足度調査で満足と回答した人の割合	60%	—	—	—	初めて満足度調査を行うことから、講座参加者の過半数以上が満足している状態を目標値とした。	79%	S	S	実績は目標値の130%であり、期待を上回る水準で目標を達成できた。従来の講座内容を大きく見直して、韓国釜山市との交流や参加者同士の対話を取り入れるなどの工夫を行うことにより、高い満足度を得ることが出来た。	事業成果の評価・検証や、関係団体との情報交換を行うなどして、引き続き講座内容の充実を図り、多くの市民の理解や関心を高める工夫を継続して実施していく。
歴史文化課	51	駿府城二の丸施設管理運営	H27-	市(直営・委託)	歴史的な名所の核の一つである駿府城公園の東御門・巽櫓など、3施設を平成28年度より一体管理し、利用を推進する。	①施設の管理(指定管理) ②イベントの実施	①歴史体験学習事業の実施回数 ②施設PR、新規顧客獲得事業の実施回数	①4回/年 ②2回/年	①5回/年 ②3回/年	一般	76,698	1,250	76,695	1.0	0.0	利用者満足度調査で満足と回答した人の割合	90%	85.5%	90%	92%	過去3か年の実績を元に、高水準での利用者満足度維持を目標値として設定した。	91%	A	A	利用者満足度調査において、実績値は前年度よりも増加し、高水準の満足度を維持することができた。	令和5年1月に開館する歴史博物館と連携した企画の実施等により、満足度の維持を図る。
歴史文化課	52	駿府城跡天守台野外展示事業	R2-	市(直営・委託)	発掘調査成果を踏まえ、徳川家康と豊臣秀吉が関わったと考えられる本物の天守台の迫力を間近に感じることができる日本唯一の野外展示として、遺構の保存と活用を両立させた整備を行う。	①基本設計の実施 ②市民への説明及び意見聴取	①業務の実施 ②出前講座等による説明及び意見聴取	①実施 ②10回	①実施 ②11回	一般	2,000	21,600	22,438	1.5	0.0	実施設計に必要な基本設計の概要の進捗率	100%	70%	—	—	次年度以降に実施設計を行うために、今年度は基本設計の概要を決めておく必要があるため、100%とした。	100%	A	A	実績は目標値の100%であり、期待どおり目標を達成できた。新型コロナウイルス感染対策を行いながら出前講座、ワークショップ、パブリックコメントを実施して、市民意見を反映する形で基本設計を作成した。	令和4年度は、令和3年度に作成した基本設計を基にして実施設計の作成を行い、令和5年度以降に工事を実施できるよう準備を進めていく。
歴史文化課	53	駿府城跡天守台発掘調査見える化事業	H28-R4	市(直営・委託)	駿府城の天守台跡地の整備方針決定に向け学術的データを得るために実施する発掘調査を、歴史学習の場、観光資源としても活用し、駿府城及び天守台への関心を高める。	①常設見学ゾーン、展示棟の設置、運営 ②HP等による発掘情報の発信 ③発掘調査関連イベント実施	①HPによる発掘情報発信回数 ②シンポジウムの実施	①24回/年 ②1回/年	①24回/年 ②1回/年	一般	11,061	—	8,891	1.5	2.0	歴史文化課HP「さきがけミュージアム」のアクセス件数	71,000件	64,534件	70,888件	75,988件	発掘調査(掘削作業)が終了し、新たに大きな発見が見込めない中で、既存の情報を磨き上げて発信内容を充実させると共に、発信方法を工夫することで発掘調査実施時と同程度の関心を喚起することを目指して、発掘調査(掘削作業)の最終年度を上回る件数とした。	75,284件	S	S	実績は目標値の106%であり、期待を上回る水準で目標を達成できた。年間を通して日常的に多くの情報発信を行うとともに、発掘調査報告会等のイベントの周知を実施することで、多くの関心を集めることにつながり、令和2年度を大きく上回る成果があった。	天守台跡地を歴史学習や観光資源として活用していくため、引き続き、発掘調査成果等に関する情報の発信を工夫して行うことにより、広く発掘調査現場や駿府城に対する関心を高めていく。
歴史文化課	54	歴史文化施設建設事業	H27-R4	市(直営・委託)	輝かしい静岡の歴史文化を保存・伝承し、その魅力を市内外へ発信する「歴史文化のまち」の中核となる歴史文化施設の建設に向けた取組を行う。	①建設工事 ②展示工事 ③資料調査・購入・複製製作 ④運営計画作成	施設建築物の建設及び展示工事の実施	実施	実施	一般	1,390,306	446,200	1,799,104	8.3	1.2	施設建築物の建設及び展示工事の工事進捗率	83%	16%	0%	—	令和5年春に開館予定の博物館の建設工事について、令和4年6月までの完了に向けて工事の確実な進捗を成果としてとらえ、今年度末の進捗率の目標値を83%(15/18か月)とした。	83%	A	A	令和3年1月から工事を着手し、建設(建築・電気・衛生・空調・昇降機)及び展示工事について、各工事施工業者や設計事務所とともに工程管理や施工協議・調整を行い、工事進捗率が目標値を達成した。	令和5年1月の開館に向けて、令和4年6月までに建設及び展示工事を完了させるため、引き続き工程管理や施工協議・調整を行っていく。
歴史文化課	55	歴史文化施設プレ事業	H29-R4	市(直営・委託)	歴史文化施設の開館に向けた市民の機運を高めるため、企画展の開催等を行う。	①企画展の開催 ②歴史観光の試行	①ブログ等による情報発信回数 ②企画展示での他館等との関連事業の開催	①30回/年 ②展示期間3回	①31回/年 ②5回	一般	10,412	—	8,769	0.2	0.8	歴史文化施設の建設を進めていることを知っている人の割合	70%	66%	41%	—	令和2年度アンケート結果が66%であったことを踏まえ、令和3年度は約1割増の70%を目標値とした。	65%	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント開催による周知など広報活動を行えない期間があったが、歴史観光施設事業や連携事業を通して、市民・民間団体との関係づくりを進めるなど地道な情報発信が奏功し、目標値に対し93%の結果となった。	令和5年1月の施設開館に向けて、機運醸成のための事業を継続していく。さらに多くの方に施設について知ってもらうため広報紙等への掲載等のPR活動を行う。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)					成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費					⑨成果指標(アウトカム指標)							⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			実績値				達成度	
																		R2	R1	H30						当該年度の目標値の算出根拠
国際交流課	56	多文化共生総合相談センター運営事業	H 31 -	市(委託)	外国人住民からの生活上の相談等に多言語で対応する体制を整える。	多文化共生総合相談センターの設置運営	多言語に対応した総合相談センターの適切な運営	実施	実施	一般	13,052	—	12,135	0.5	0.0	相談完了率	95%	100%	—	—	多様な言語を話す外国人住民からの相談に対応するセンターの運営が適切に行われ、関係部署への引継ぎなど、外国人住民相談の対応が概ね完了している状態(95%)を目標値とした。	100%	S	A	1,227件の相談に対応した。新型コロナウイルス感染症の関係で、通訳タブレットを保健所に設置するなど柔軟な対応ができた。	増加傾向にある外国人住民の状況や、相談内容等を分析しニーズに応じた相談体制を充実させる。
国際交流課	57	自治体国際化協会静岡支部負担金	H 17 -	補助等(交付先)	地域の国際化の推進を図るため、地方公共団体の共同組織として設置された自治体国際化協会へ負担金を支出する。	①静岡市支部として、自治体国際化協会の分担金を支出 ②協会が提供するメニューの活用	①活用メニューの申請・報告等事務処理の円滑な実施 ②自治体国際化協会との連絡	①実施 ②随時	①実施 ②随時	一般	10,000	—	9,000	0.1	0.0	自治体国際化協会が提供する事業メニューの活用件数	8件	8件	8件	9件	直近3か年の実績から、8件を目標値として設定した。	10件	S	A	災害時についての研修などのメニューを各課に周知し、10件の利用があった。目標を上回った。	自治体国際化協会が提供するメニューを、積極的に庁内関係各課に提案するなどして、メニューの活用を促していく。
文化財課	58	文化財補助金交付事業(静岡浅間神社)	H 26 - R 11	補助等(交付先)	静岡浅間神社の重要文化財建造物を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	外部塗装の傷み等が進んでいる重要文化財の社殿群の保存修理に対し、補助金を交付する。	①現場見学会の実施回数 ②補助事業進捗管理 ③補助金交付事務	①4回 ②工程会議支援12回 ③3月交付確定	①中止 ②工程会議支援12回 ③3月交付確定	一般	30,000	—	30,000	0.3	0.0	①静岡浅間神社保存修理現場見学会の参加者数 ②文化財補助金交付(=保存修理等の年度事業完了)	①36人 ②交付完了(1件)	①40人 ②交付完了(1件)	①35人 ②交付完了(1件)	①39人 ②交付完了(1件)	①文化財保存修理事業を静岡浅間神社の文化財をPRする機会と捉え、修理現場の見学会について、定員の9割を目標値とした。 ②予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了することを目標とした。	①中止 ②交付完了(1件)	①— ②A	A	①新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。 ②予定どおり、予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了した。	①新型コロナウイルス感染症の影響により中止せざるを得ないことがある。 感染拡大状況によっては、開催時期の変更など柔軟な対応を検討する。 ②長期の保存修理計画であり、計画変更等が必要な場合がある。円滑な計画変更を行うため、早期に文化庁と協議を行い対応していく。
文化財課	59	文化財補助金交付事業(久能山東照宮)	H 27 - R 3	補助等(交付先)	久能山東照宮の国宝・重要文化財建造物等を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	老朽化により不具合が発生している防災施設の改修事業に対し、補助金を交付する。	①補助事業進捗管理 ②補助金交付事務 ③文化庁立会補助	①工程会議支援12回 ②3月交付確定 ③実施	①工程会議支援12回 ②3月交付確定 ③実施	一般	10,752	1,311	11,428	0.3	0.0	文化財補助金交付(=保存修理等の年度事業完了)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	交付完了(1件)	予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了することを目標とした。	交付完了(1件)	A	A	予定どおり、予算・工程調整、関係機関協議、市から国・県への取次ぎ(進達)等を経て、国・県・市の補助金交付をもって、文化財保存修理の年度事業が完了し、平成27年度から開始した本事業が完了した。	久能山東照宮の建造物防災事業は令和3年度で終了した。
文化財課	60	文化財補助金交付事業	-	補助等(交付先)	静岡市の文化財を将来にわたり保護し、活用の促進を図る。	市内の文化財の保護や活用事業に対して補助金を交付する。	①補助事業進捗管理 ②補助金交付事務	①事業者との協議 ②確定通知	①事業者との協議の随時実施 ②完了	一般	21,764	—	18,773	1.0	0.4	申請に対する補助金の執行状況	100%	97%	100%	100%	文化財の保護と活用のために必要な保存修理や公開事業等について、補助金交付申請に対して当該補助金が全て交付されていることを目標とした。	96%	A	A	1件の補助事業を令和4年度に繰り越したものの、それ以外の補助金については、遅滞なく交付を完了した。	本市には非常に多くの文化財があり、その状態を常にモニタリングすることは困難である。 職員による随時の確認や関係者等からの情報提供など、保存状態や管理状況の把握に努め、補助金の交付先を適切に選定する。
文化財課	61	地域文化の担い手育成事業	H 25 -	市(直営・委託)	市民に対し文化財の保存・伝承、活用への自発的な参加や行政との協働を促す。	①無形民俗文化財公開事業(大神楽祭)の実施 ②文化財サポーター入門講座の実施	①大神楽祭開催 ②入門講座受講者数	①開催 ②20名	①中止 ②17名	一般	2,362	—	552	1.5	0.5	①大神楽祭来場者数 ②文化財サポーター登録率	①1,000人 ②80%	①中止 ②82%	①2,000人 ②87%	①1,000人 ②72%	①新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から来場者を制限するため、令和元年度の1/2を目標値とした。 ②文化財サポーター入門講座受講生がサポーター登録を行う割合の過去3年の平均値を目標値とした。	①中止 ②94%	①— ②A	A	①新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止した。 ②入門講座の受講生17人のうち、16人がサポーター登録を行った。	①新型コロナウイルス感染症拡大により中止せざるを得ないことがある。 感染拡大状況によっては、無観客開催、映像配信等の代替案を検討する。 ②文化財サポーターの登録数は順調に伸びているが、活動機会が限られている。 文化財関係イベント等だけでなく、文化財管理のサポートを行う機会を継続的に提供していく。
文化財課	62	一般文化財保護事業	-	市(直営・委託)	文化財の調査や保存・顕彰、活用等を行い、文化財保護意識の醸成を図り、貴重な文化財を後世に引継ぐ。	①文化財保護審議会の運営 ②駿府九十六ヶ町町名碑の設置 ③文化財特別公開の実施	①文化財保護審議会の開催 ②町名碑設置数 ③特別公開事業の実施	①2回 ②4基 ③4か所	②4基 ③4か所	一般	9,034	—	6,389	1.2	0.3	①文化財指定(諮問件数) ②町名碑イベントの参加者数 ③特別公開箇所数	①諮問1件 ②45人 ③10か所	①答申1件 ②50人 ③10か所	①諮問2件、答申1件 ②66人 ③10か所	①答申1件 ②66人 ③10か所	①指定候補物件の状況を考慮して文化財保護審議会への諮問可能数を目標とした。 ②町名碑を活用したウォーキングイベントの募集定員50人当日キャンセル分を考慮して目標とした。 ③過去3か年の平均公開箇所数を目標とした。	①0件 ②50人 ③4か所	①C ②A ③B	B	①指定候補物件について関係者との調整が必要となり、諮問に至らなかったため。 ②募集定員どりの参加者となった。 ③当初は目標値の10か所での公開を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により公開中止になったものが6か所あり、目標を下回る結果となった。	①本市には指定されていない文化財も多くあると考えられるが、その把握が進んでいない。 文献等の確認により未指定文化財の把握を行い、計画的な調査につなげていく。 ②町名碑の周知と活用を行う必要がある。 ③新型コロナウイルス感染症防止等、開催に当たった懸念事項を確認し、対策を示して協力を得る。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)					成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など					
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費					⑨成果指標(アウトカム指標)							⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			実績値				達成度	
文化財課	63	文化財管理事業	-	市(直営・委託)	本市所管の文化財の管理、活用等を行い、貴重な文化財を後世に引継ぐ。	①文化財建築物、史跡名勝等の管理 ②旧マッケンジー住宅の保存・活用の検討	①管理業務等の委託状況 ②文化財建造物調査	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	43,226	-	36,403	1.2	0.5	入場者数(旧エンバースン住宅、旧マッケンジー住宅、旧五十嵐邸、お休み処、小池邸、次郎長生家)	20,000人	19,225人	39,507人	45,719人		新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、前年度と同等の来場者数を目標値とした。	24,296人	S		A
文化財課	64	文化財資料館管理運営事業	-	市(直営・委託)	文化的価値のある資料を保管すると共に市民文化の向上及び文化財保護思想の普及を図る。	資料の収集・受託及び保管・展示並びに常設展・企画展を実施する。	①管理業務等の委託状況 ②企画展の開催 ③運営委員会の実施	①実施 ②3回 ③2回	①実施 ②3回 ③2回	一般	15,271	-	14,733	0.5	0.0	文化財資料館入館者数	6,000人	7,423人	12,974人	10,877人	新型コロナウイルス感染症拡大の影響及び閉館期間(4月～12月)を考慮して目標を設定した。	8,883人	S	A	閉館までの9カ月間に、3回の企画展を実施し、最後の企画展の際には過去のポスター展示や記念品の配付、SNSや報道機関によるPRを積極的に行い、新型コロナウイルス感染症拡大前の水準に近い来館者数となった。	文化財資料館は令和3年をもって閉館したため、その役割は、歴史博物館に引き継いでいく。
文化財課	65	由比北田の天王舟流し	R3-R4	市(直営)	「国の記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財」である「由比北田の天王舟流し」を記録する。	「由比北田の天王舟流し」について、行事の現地調査及び文献調査を行う。	①調査会議の開催 ②報告書の作成	①3回 ②着手	①3回 ②着手	一般	1,210	-	729	1.0	0.3	調査の進捗率	60%	-	-	-	主な現地調査について、調査全体に対する年度ごとの進捗状況を目標として設定した。(R3:10回程度、R4:7回程度)	70%	S	A	当初の調査対象の見直しを行い、調査報告書を作成するためのより広い調査を令和3年度中に実施したことから、目標を上回る結果となったが、調査計画全体としては概ね予定どおりの成果となった。	新型コロナウイルス感染症拡大により調査を実施できない可能性がある。万全の感染症対策をとりつつ、地元との理解を得たうえで調査を進め、令和5年3月に調査報告書を刊行する。
文化財課	66	史跡片山庵寺跡保存整備事業	H22-	市(直営)	史跡指定地内の48%を占める私有地での開発等から史跡を守るため、発掘調査と公有地化を実施する。	①地下遺構を把握するための調査(発掘調査)を実施する。 ②発掘調査の成果及び史跡整備の方向を報告する。	①調査件数 ②整備検討委員会の開催	①1件 ②1回	①1件 ②1回	一般	1,093	-	320	1.5	0.0	今年度事業計画達成率	100%	100%	75%	100%	地下遺構を把握するための調査、整備検討委員会の開催を実施する予定であり、その事業達成率100%を目標値として設定した。	100%	A	A	調査件数1件、整備検討委員会の開催1回と全ての項目について目標を達成した。	公有地化の推進と同時に史跡の情報発信や活用について検討する必要がある。史跡の周知化、価値向上のため「史跡片山庵寺跡」から「駿河国分寺」へ名称変更の必要がある。名称変更に向けて文化庁との協議を行っていく。
文化財課	67	史跡小島陣屋跡保存整備事業	H24-R6	市(直営)	江戸時代の幕藩体制の一環を示す小島陣屋跡を歴史公園として整備し公開活用を図る。	①史跡整備に向けた設計を実施する。 ②史跡整備に向けた石垣修復工事(書院南西部)を実施する。 ③発掘調査の成果及び史跡整備の方向を報告する。	①設計件数 ②工事実施件数 ③整備委員会の開催	①1件 ②1件 ③2回	①1件 ②1件 ③2回	一般	53,523	7,448	56,256	1.5	0.0	今年度事業計画達成率	100%	75%	100%	100%	整備のための史跡整備の設計、石垣修復工事(書院南西部)、整備委員会の開催を実施する予定であり、その事業計画の達成率100%を目標値として設定した。	100%	A	A	史跡整備の実設計完了、石垣修復工事完了、整備委員会の開催2回とすべての項目について目標を達成した。	令和4年度から本格的に整備工事が開始するため、工事に関する内部及び文化庁の必要な手続きを確実にし、事業を滞りなく進めていく必要がある。関係各課、施工業者等との協力体制を構築し、整備完了に向けた調整を行っていく。
文化財課	68	埋蔵文化財発掘調査事業	-	市(直営・委託)	民間開発に伴う発掘調査及び市内の埋蔵文化財包蔵地内外における開発に対応する。	①市内の埋蔵文化財包蔵地内外の試掘・確認調査を実施する。 ②民間開発に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施する。	①試掘確認調査件数 ②発掘調査件数	①②依頼のあった件数	①33件/33件 ②9件/9件	一般	100,804	-	6,197	3.0	0.5	試掘確認調査並びに発掘調査達成率	100%	100%	100%	100%	毎年試掘確認調査並びに発掘調査の依頼が合計で50件程度寄せられている。民間開発における調査依頼に迅速に対応するため、年度内実施の依頼のあった調査達成率100%を目標値として設定した。	100%	A	A	公共事業、民間開発等のスケジュールに対応し、事業者と事前協議を行ったうえで、年度内に実施すべき調査を全て実施した。	開発工事が円滑に進むよう、開発業者と事前協議を綿密に行ううえで、事前の許認可及び発掘調査の実施を迅速に行う必要がある。開発時期を早めに把握して発掘調査を速やかに実施できる体制を整えていく。
文化財課	69	埋蔵文化財センター管理運営事業	H16-	市(直営)	埋蔵文化財センターの円滑な管理運営と共に出土遺物の調査整理と展示公開を行い、市内の埋蔵文化財について顕彰する。	①発掘調査した遺跡の整理作業と出土遺物の保管・管理・展示を行う。 ②整理作業の終了した遺物の展示や遺跡の紹介を行う。	①出土遺物の実測点数 ②企画展の開催回数 ③来訪者数	①500点 ②4回 ③800人	①1,129点 ②4回 ③1,389人	一般	7,672	-	7,240	1.0	5.5	①出土遺物の実測点数 ②企画展の開催回数 ③来訪者数	①500点 ②4回 ③800人	481点	5,794点	2,220点	①施設設置の本来目的である出土資料の整理作業のうち、遺物実測数を目標とした。(H30～R1は遺物合計数量)②③整理作業を終えた調査成果を公開する企画展回数と来訪者数をそれぞれ目標値とした。	①1,129点 ②4回 ③1,389人	A	A	計画していた駿府城跡出土品のほか、市内遺跡発掘調査を含む遺物1,129点の実測作業を完了した。また、発掘調査の成果を中心とした展示を3回、井上馨展を1回実施し、目標来訪者数を達成した。	発掘調査出土品および図面資料を活用できる状態に整理を進める。整理が完了した遺物を適切に保管していくとともに、定期的に市民に公開していく。
文化財課	70	三保松原文化創造センター管理運営	H31-	市(直営・委託)	世界文化遺産「三保松原」の魅力と価値を国内外へ発信するとともに、三保松原と他の文化や芸術と融合させた松原文化を創造していく。	○建物の保守、管理 ○展示の保守、管理 ○企画展の開催	①年間を通しての開館 ②年間を通しての公開 ③企画展の開催回数	①実施 ②実施 ③4回	①実施※ ②実施※ ③4回※ ※コロナによる休館あり	一般	33,177	3,460	27,797	1.5	1.0	来館者数	400,000人	322,643人	665,744人	48,304人	新型コロナウイルスの影響を鑑み、前年度の20%増を目標値とする。	253,302人	C	B	緊急事態宣言に伴う休館や、まん延防止措置による人流抑制の影響から、来館者数が減少したため、目標値に届かなかった。休館した期間を除き、適切に施設及び展示資料の保守管理を行い開館し、年4回の企画展を実施した。	施設の認知度及び関心度の向上のため、関係機関と連携し充実した企画展の開催を図るとともに、運営するサイトやSNSを効果的に活用し、施設や事業に対するさらなる周知に取り組む。

① 所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		② 事務事業名	③ 期間	④ 事業の実施主体	⑤ 事業目的	⑥ 事業内容	⑦ 活動指標(アウトプット指標)			⑧ 事業費				⑨ 人工				⑩ 成果指標(アウトカム指標)				⑪ 1次評価	⑫ 評価理由	⑬ 今後の課題と課題解決に向けた取組内容		
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠				実績値	達成度
文化財課	71	三保松原保全活用事業(ソフト)	H 25 -	市(直営・委託)	三保松原が富士山世界文化遺産の構成資産となり、三保松原の保全と活用の調和がとれた事業の調整と推進を図る。	○三保松原の保全とその啓発 ○三保松原の活用のサポート	①マツ材線虫病防除事業 ②松原保全に関する講座開催 ③SNSの毎日の更新	①実施 ②9回 ③365回	①実施 ②8回 ③2,284回	一般	143,279	-	134,276	1.5	1.0	①マツ材線虫病による松枯れ ②保全ボランティア参加者数	①1本/ha以下の維持 ②1,256人 ③1,600人	①0.59本/ha ②1,256人 ③3,989人	①0.77本/ha ② ③	①0.65本/ha ②-	①三保松原の松林保全技術会議の「三保松原の松林保全に向けた提言書」における目標値 ②新型コロナウイルスの影響を鑑み、前年度の20%増を目標値とする。	①0.42本/ha ②1,946人	①S ②S	S	①令和元年度からドローンを利用したマツ材線虫病防除薬剤散布を実施し、目標値を平成29年度以降継続達成できた。 ②みほしるべ周辺には比較的多くのボランティア参加者が訪れているが、離れた場所ではボランティアの人数が足りていないため、ウェブサイトイベントカレンダーや公式SNS等を活用して積極的なPRを行い、保全ボランティア参加者の増加につなげる。	①薬剤散布実施エリア外においてマツ材線虫病による松枯れが近年多発しているため、該当エリアでの伐倒駆除を徹底する。 ②みほしるべ周辺には比較的多くのボランティア参加者が訪れているが、離れた場所ではボランティアの人数が足りていないため、ウェブサイトイベントカレンダーや公式SNS等を活用して積極的なPRを行い、保全ボランティア参加者の増加につなげる。
文化財課	72	三保松原保全活用事業(ハード)	H 29 -	市(直営・委託)	世界文化遺産プロパティエリアの周辺を公有地化し、三保由来のマツ苗を生産する母樹園や苗畑を整備するとともに、マツを植樹することにより、失われた松原の再生及び道路環境からプロパティエリアを保護する。	○プロパティエリア周辺の公有地化 ○圃場の整備	①契約締結件数 ②公園整備課に工事の委嘱 ③国庫補助申請	①土地購入1件、物件補償1件 ②実施 ③実施	①契約締結なし ②実施 ③実施	一般	74,384	-	61,528	2.0	0.0	①プロパティエリア周辺の公有地化 ②圃場整備の実施	①Aブロックの購入 ②圃場の完成	Bブロック(羽衣海岸線陸側部分)の購入完了及びAブロックの購入	Bブロック(羽衣海岸線海側部分)の購入	Bブロック371㎡購入	3次総実施計画に掲げる用地購入および整備計画による。	①購入できず ②圃場完成	①- ②A	A	①清水道路整備課が隣地の用地買収を行わなければ当該土地は購入できない状況で、清水道路整備課で用地交渉が進まなかったため。 ②予定通り圃場が完成し、三保由来のマツ苗育成の準備が整った。	①清水道路整備課の交渉進捗を確認しながら、情報共有と連携を図る。 ②圃場での育苗は前例がなく、生産量予測が難しい。県や国の専門部署、外部の専門機関と連携し、育苗に関する知見を活用して安定供給体制を構築する。
文化財課	73	登呂博物館管理運営業務	S 47 -	市(直営)	登呂遺跡の価値を市民に発信し、地域の歴史や文化について関心を深めてもらう。	○幅広い分野の展示 ○講座・講演会等教育普及事業の実施 ○博物館協議会の開催	①特別展・企画展回数 ②各種教育普及事業の開催回数 ③協議会開催回数	①4回 ②25回 ③2回	①5回 ②26回 ③2回	一般	65,535	880	59,322	6.0	8.0	博物館の入館者数	102,000人	97,168人	169,568人	167,796人	新型コロナウイルスの影響を鑑み、前年度実績の5%増を目標値として設定。	118,132人	S	A	新型コロナウイルスの影響を鑑みて、前年度実績の5%増を目標としたが、目標を大幅に上回り20%以上(20,964人)の増加が見られた。前年度に引き続き感染対策を行い、安心して見学することができる受け入れ態勢を整えたことが結果となった。	新型コロナウイルスが全国的に収束してきたように感じているが、当館では体験展示を売りにしているため、引き続き消毒等の対策を行い、訪れる人が安心して見学できる環境を整える。加えて、教育普及事業にも力を入れた。
文化財課	74	「登呂ムラ」発信事業(登呂博物館)	H 22 -	市(直営)	弥生時代の生活体験を通し、登呂遺跡の見学者に遺跡の魅力をより深く理解してもらう。	弥生時代の生活体験学習	登呂遺跡内での体験学習指導の日数	261日	261日	一般	30	-	30	1.0	4.0	遺跡案内、体験学習者数	98,452人	93,769人	148,659人	153,235人	新型コロナウイルスの影響を鑑み、前年度実績の5%増を目標値として設定。	115,821人	S	A	新型コロナウイルスの影響を鑑みて、前年度実績の5%増を目標としたが、目標を大幅に上回り20%以上(22,052人)の増加が見られた。前年度に引き続き感染対策を行い、安心して見学することができる受け入れ態勢を整えたことが結果となった。	新型コロナウイルスが全国的に収束してきたように感じているが、当館では体験展示を売りにしているため、引き続き消毒等の対策を行い、訪れる人が安心して見学できる環境を整える。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など						
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠					実績値
まちは劇場推進課	75	シズオカメックスウィーク開催補助金	H 22 -	補助等(交付先)	姉妹都市カンヌ市で開催されるカンヌ国際映画祭に合わせて開催するシズカンウィーク等の実施により、観光交流人口の拡大及び本市のPRにつなげ、「まちは劇場」の推進を図る。	主催者である実行委員会への補助金交付	①補助金交付事務の適正な実施 ②実行委員会の運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,700	—	1,400	0.5	0.0	連動企画数	7事業	中止	20事業	20事業	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業規模を1/3に縮小するため、平成30年度、令和1年度実績(20事業)の1/3程度を目標値として設定した。	10事業	S	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため規模を縮小しながらも、目標を上回る企画数を確保できた。しかし、例年と比べると連動企画数が減少しているため、評価はAとした。	自主財源の確保が課題であるため、イベントの趣旨に賛同する企業を広く募り、実行委員会組織の強化を目指す。
まちは劇場推進課	76	静岡まつり開催補助金	S 32 -	市・補助等(直営・交付先)	本市の歴史文化の紹介を通じて、魅力を広く市内外に向けて情報発信することでまちなりの賑わいを創出し本市を訪れる観光客の増加を図る。	毎年4月に開催される「静岡まつり」の主催者である実行委員会への補助金	①補助金交付事務の適正な実施 ②実行委員会の運営支援 ③公式パンフ作成	①実施 ②実施 ③1回	①実施 ②実施 ③1回	一般	80,565	—	60,760	1.0	0.2	イベント入込客数(主催者発表数)	400,000人	中止	1,000,000人	960,000人	新型コロナウイルス感染症の影響及び事業規模縮小により、来場者数の減が予想される。また、来場者の物理的距離の確保に配慮し、入場制限をかけることも視野に入れているため、例年の入込客数の1/2程度を目標値として設定した。	290,000人	B	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため大御所花見行列を中止するなど事業規模を縮小したことにより、目標を下回る来場者数となった。しかし、開催により、本市の魅力を発信し、まちなりの賑わいを創出することができたため、評価はAとした。	おねり保存事業と一体的に運営し、歴史文化のまちづくりによる賑わいづくりに向け、静岡まつり実行委員会を支援する。
まちは劇場推進課	77	静岡おでん祭開催補助金	H 18 -	補助等(交付先)	本市を代表する食べ物のひとつであるおでんに関する情報を広く市内外に発信し、本市を訪れる観光客の増加を図る。	毎年3月に開催される「静岡おでん祭」の主催者である実行委員会への補助金交付	①補助金交付事務の適正な実施 ②広報活動の円滑な運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,000	—	4,000	0.3	0.0	イベント入込客数(主催者発表数)	200,000人	中止	中止	240,000人	新型コロナウイルス感染症の影響が懸念されるものの、開催予定時期が令和4年3月であることから、過去実績と同等の入込客数を目標値として設定した。	147,000人	B	A	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため規模を縮小しながら開催したことにより、当初の目標値を下回る来場者数となった。しかし、開催により、本市の魅力を発信し、まちなりの賑わいを創出することができたため、評価はAとした。	本市特有の食文化である静岡おでんを観光資源として活用し、交流人口の拡大に向け、静岡おでん祭実行委員会を支援する。
まちは劇場推進課	78	SHIZUOKA PICNIC GARDEN補助金	H 30 -	補助等(交付先)	本市の豊富な地場産品を観光資源として市内外に発信し、地域経済の活性化及び交流人口の増加を目指す。	「SHIZUOKA PICNIC GARDEN」の主催者である実行委員会への補助金交付	①補助金交付事務の適正な実施 ②運営補助	①実施 ②広報活動の円滑な運営支援	①実施 ②広報活動の円滑な運営支援	一般	34,000	—	34,000	0.1	0.0	イベント入込客数(主催者発表数)	49,000人	17,000人	284,090人	100,000人	新型コロナウイルス感染症の影響により、来場者数の減が予想される。令和2年度よりも開催期間を拡大(4日→7日)すること、また来場者の物理的距離を保ちながらイベントを運営することを考慮し、1日の来場者数を7,000人程度と見込み、目標値を設定した。	65,900人	S	S	通常のゴールデンウィークの開催に加えて、11月にもイベントを開催することができたため、目標値を大幅に上回る来場者数となった。本市の魅力を広く発信することができたため、評価をSとした。	令和2年度より駿府城公園を主会場とし、公園の魅力向上にも取り組んでいる。今後も、効果的な情報発信をするともに、同時開催のイベントと連携するなど、交流人口の増加に向け、しずおかフェア実行委員会を支援する。
まちは劇場推進課	79	人の集まる街づくり推進事業	H 15 -	市(直営)	周辺地域、商店街等のにぎわい創出を図り、人の集まる街づくり及び地域振興に寄与する	イベント、広報宣伝等を行う者に対して、青葉イベント広場の貸し出す。	青葉イベント広場の適正な貸出	実施	実施	一般	1,845	—	1,794	0.1	0.2	貸出稼働率	10%	12%	44%	44%	過去の貸出稼働率の平均値並みを目標値としてきたが、令和3年度については、令和2年度のコロナ禍における貸出状況(12%)を鑑み、目標値を設定した。	21%	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、感染拡大防止策を講じ、目標値を達成するとともに、昨年度の実績を9%上回る事ができた。しかし、例年と比べると稼働率が減少しているため、評価はAとした。	コロナ禍ではあるが、徐々にイベントが復活し活気を取り戻しつつある。稼働率をコロナ禍前の数値に戻すことを目標とし、適正な貸出業務に尽力する。
まちは劇場推進課	80	「まちは劇場」推進事業 ストレンジシード開催事業	H 28 -	市(委託)	市街地において、演劇、ダンスを中心とした文化芸術イベントを開催することで、「まちは劇場」を推進し、まちなりの存在感を高め、交流人口の増加に資する。	駿府城公園及び周辺市街地において、演劇、ダンスを中心とした文化芸術イベントを開催。	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検取	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	24,000	—	23,890	0.4	0.0	「ストレンジシード」来場者数	8,052人	11,572人	17,852人	9,925人	新型コロナウイルス感染症拡大防止策として各会場に定員(40人～100人)を設け、設定した定員数に来場者数が達することを目標とした。	13,651	S	S	令和2年度はコロナ禍の影響により2日間の実施だったが、令和3年度は4日間で実施し、感染症の拡大も落ち着いていたことから各会場の定員数を増やして最大160名としたことで、目標値を大幅に上回ることができた。文化芸術を活かしたまちづくりを進める本市の魅力を広く発信することができたため、評価をSとした。	新たなファン層の拡大に向けて、ファミリー向けの演目を増やしたが、ストレンジシードのファンには賛否があった。今後の方向性について、関係者と協議を進めていく。
まちは劇場推進課	81	「まちは劇場」推進事業 まちは劇場コンサート事業	H 28 -	市(委託)	オーケストラ等と連携し、オープンスペースでのコンサートをを行い、文化を通じてまちなりを活性化させることにより、「まちは劇場」を推進する。	「まちかどコンサート」、「Hotひといきコンサート」を開催	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③事務処理の円滑な実施	①2件 ②13件 ③実施	①2件 ②13件 ③実施	一般	9,920	—	9,464	0.0	0.6	①まちかどコンサート来場者数 ②Hotひといきコンサート来場者数	①2,600人 ②740人	①4,617人 ②1,097人	①6,289人 ②3,789人	①6,865人 ②4,939人	①新型コロナウイルス感染症拡大防止策として来場者の物理的距離の確保に配慮し、1回当たりの来場者数60人×43回=2,580人を予想値として算出、2,600人を目標値として設定した。 ②新型コロナウイルス感染症拡大防止策として設定した募集定員を目標値とした(由比蒲原130人×2回+清水80人×2回+静岡80人×4回)	①4,062人 ②777人	①S ②A	A	目標値を達成することができたが、例年と比べると来場者数が減少しているため、評価はAとした。	来場者の年代に偏りが見られるため、新たな年代へのアプローチとして、様々な会場や時間帯、内容での開催を検討していく必要がある。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など								
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨成果指標(アウトカム指標)				⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容							
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(A)	指標名	当該年度の目標値				直近3か年の実績値			実績値	達成度		
																					R2	R1	H30			当該年度の目標値の算出根拠	
まちは劇場推進課	82	「まちは劇場」推進事業 市民参加型舞台公演事業	H 30 -	市(委託)	あらゆる人々が文化芸術活動に参加できる環境の整備に取り組む、本市のプレゼンスの向上及び「市民が主役」のまちは劇場プロジェクトを推進する。	演劇ワークショップ及び発表公演(市民参加型パリアフリー公演)の開催	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検取	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	5,700	—	5,698	0.3	0.0	①演劇ワークショップ開催回数 ②市民参加型パリアフリー公演の開催回数	①20回 ②1回	①25回 ②1回	①45回 ②1回	①36回 ②-	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、演劇ワークショップ開催回数については、前年度と同様に20回、成果発表の機会としての公演開催回数も前年度同様に1回を目標値として設定した。	①54回 ②2回	①S ②A	S	目標値を大きく上回るワークショップの実施回数となり、健常者と障がい者が同じ舞台上立ち、あらゆる人々が参加できる芸術活動の場を整備することができた。また観覧者からの高い評価を得ることができたため、評価をSとした。	来場者の更なる増加に向けてPR活動を充実させる。また、継続的な開催に向けて、演者や運営スタッフの更なる育成を図っていく必要がある。	
まちは劇場推進課	83	ふじのくにせかい演劇祭開催事業補助金	H 30 -	補助等(交付先)	国内有数の演劇祭である「ふじのくにせかい演劇祭」の開催を支援することで、本市5大構想のひとつであるまちは劇場の推進を図る。	「ふじのくにせかい演劇祭」の主催者である(公財)静岡県舞台芸術センターへの補助金交付	補助金交付事務の適正な実施	実施	実施	一般	41,400	—	41,400	0.1	0.0	イベント入込客数(主催者発表数)	912人	累計視聴回数 56,088回 (動画配信)	3,423人	3,218人	新型コロナウイルス感染症の影響により、海外からの招聘公演を見送り、事業規模を縮小して開催する。開催会場である駿府城公園、舞台芸術公園等の定員数の45%である912人を目標値として設定した。	1,159	S	A	A	事業規模を縮小して開催となったが、感染拡大防止対策を講じることで、コロナ禍においても生の演劇を観客に届けることができた。しかし、例年と比較すると入込客数は減少しているため、評価はAとした。	本市の「春フェス」の核となるイベントとして、発信力をさらに磨き上げていく必要があるため、主催者と連携し、海外プロモーションにも取り組んでいく。
まちは劇場推進課	84	フェスティバル・シティブランディング事業	H 30 -	市(委託)	市内で開催される複数のフェスティバルを包括し、フェスティバルが都市のシンボルとなるためのブランド形成を行うことで、国際発信力の強化、インパウンドの増加を図る。コロナ禍においては、アフターコロナにおける世界への発信再開を見据えたインナーブランディングに注力する。	本市の魅力の世界へ発信する基盤を整えるため、市民と共に取り組む「まちは劇場」を推進するインナーブランディングを実施する。	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検取	①2件 ②2件	①4件 ②4件	一般	23,000	—	22,935	0.8	0.0	①ブランディング事業で制作したプロモーション素材を活かした発信事業の実施件数 ②市民参加型のアートプロジェクトにおけるイベントの実施回数	①1件 ②4回	①1件 ②1回	—	—	ポストコロナの新たな時代における観光需要の回復期を見据え、まずは「選ばれる都市」になるための基盤づくりを進めるというブランディングの方向性を令和2年度に定めたが、令和3年度は、その方向性に基づき、市民に向けて「まちは劇場」が目指す都市の姿を発信し、理解を深めてもらう事業の実施を目標として設定した。	①1件 ②6回	①A ②S	A	Webサイトを改修し、国内外への発信力強化と文化交流を促進する基盤を整えることができた。また、市民参加型のアートプロジェクトを実施し、「まちは劇場」の目指す姿に共感、共創する市民を掘り起こすことができたため、評価をAとした。	アフターコロナにおける交流人口の拡大に向け、Webサイトを軸に国内外への情報発信を進めていく。	
まちは劇場推進課	85	フェスティバル評価システム構築事業	H 30 -	市(委託)	本市で開催されるフェスティバルが、本市にもたらす経済的・社会的影響や効果を分析し、フェスティバルの社会的意義を明らかにするための評価システムを構築する。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮した、ロジックモデルや拡大調査の見直しを実施し、令和3年度に実施する、フェスティバルがもたらす経済的・社会的・文化的影響を広範に把握するための拡大調査に向けた準備	①業務委託契約の締結 ②業務完了報告書の確認、検取	①1件 ②1件	①実施 ②実施	一般	12,917	—	12,040	0.3	0.0	拡大調査の種類	7種	決定	決定	—	本市が構築しようとしている評価システムは、来場者のみならず、参加アーティストやスタッフ、産業界等、フェスティバルに関係する他分野の関係者に対して調査を実施し、本市にもたらす経済的・社会的・文化的効果を検証するところに特徴がある。そのため、予定している7種類の拡大調査を確実に実施し、評価システムを構築するための初期値をとることを目標とする。	7種	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度から延期していた拡大調査7種(来場者調査、参加アーティスト調査、スタッフ調査、産業界調査、市内ホテル調査、全国対象インターネット調査、市民対象インターネット調査)を実施し、報告書としてまとめることができたため、評価をAとした。	令和4年度は評価システム構築事業の最終年度を迎えるため、令和3年度に実施した拡大調査の成果に基づく分析を進め、5年間の成果をとりまとめ周知する必要がある。	
まちは劇場推進課	86	「まちは劇場」推進事業 まち劇スポット事業	H 30 -	市(直営)	都市全体が劇場のようにいつも華やかで活気に溢れた魅力的なまちを目指し、地域経済の活性化および交流人口の増加を図る。	「まち」の様々な空間において、様々なジャンルの文化に触れる機会、アーティストと市民が出会う機会を数多く提供するために、パフォーマンス環境を整備。	①スポット指定箇所数 ②アーティスト審査会の実施	①10箇所 ②1回	①10か所 ②1回	一般	1,252	—	1,252	1.0	0.0	①ライセンス保有者数 ②まち劇スポット稼働回数(延べ)	①66組 ②80回	①66組 86人 ②25回	①65組 80人 ②371回	①52人 ②43回	①登録パフォーマー組数(66組)の維持を目標とする。 ②新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、20回/月×4月=80回を目標値とした。	①79組 90人 ②90回	①S ②A	A	パフォーマー組数を大幅に増やしたほか、スポットの稼働数についても目標を上回り、市民が文化に触れる機会を創出することができた。しかしながら、コロナ禍で稼働期間が短く例年に比べ稼働回数は少なかったため、評価をAとした。	アフターコロナに向け、新規スポットの開設及び集客力と利用率をより高めていく必要がある。公民連携によるスポットの創出、予約システムの改善、SNS等を利用したPR活動について検討していく。	

① 所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		② 事務事業名	③ 期間	④ 事業の実施主体	⑤ 事業目的	⑥ 事業内容	⑦ 活動指標(アウトプット指標)		⑧ 事業費			⑨ 人工		⑩ 成果指標(アウトカム指標)						⑪ 1次評価	⑫ 評価理由	⑬ 今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(A)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度	
文化振興課	87	静岡市民文化会館管理運営事業	S 53 -	市(直営・委託)	市民に文化活動の場と多彩な芸術文化の鑑賞機会を提供することにより、市民の芸術文化の向上を図る。	指定管理者制度による館の運営(受付・案内・利用料徴収・設備の管理・事業等)の修繕、大規模改修など。	①指定管理業務協定締結件数 ②指定管理業務のモニタリング回数 ③指定管理業務報確認・検査件数(年報1件、月報12件)	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②3回 ③13回	一般	275,357	15,643	284,815	1.0	0.0	①年間利用者数 ②年間施設利用率	①50万人 ②70%	①111,400人 ②44.6%	①442,609人 ②62.6%	①501,296人 ②68.8%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書で設定した目標値	①234.94人 ②58.9%	①C ②B	A	新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や利用者数が減少したことにより目標値に届かなかったが、その影響を除けば、多彩な芸術文化の鑑賞機会の提供や施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、引き続き指定管理者が多彩な事業を展開し、広報活動に努め集客を図る。
文化振興課	88	静岡市民文化会館前駐車場管理運営事業	S 53 -	市(直営・委託)	静岡市民文化会館、静岡市中央体育館及び静岡市青少年研修センターに自動車であらびに、市民の芸術文化の向上を図るとともに、市内外から多くの人を惹きつけ、周辺エリアの回遊性を高め、経済波及効果をもたらす施設となるよう、再整備を図る。	指定管理者制度による駐車場の運営(入庫・精算・出庫管理、場内管理等)、修繕など。	①指定管理業務協定締結件数 ②指定管理業務のモニタリング実施回数 ③指定管理業務報確認・検査件数(年報1件、月報12件)	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②3回 ③13回	一般	954	-	940	0.5	0.0	年間利用率	40%	23.3%	39.8%	40.8%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書で設定した目標値	30.1%	C	A	新型コロナウイルスの影響により、事業の中止や利用者数が減少したことにより目標値に届かなかったが、その影響を除けば施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	静岡市民文化会館を含む周辺施設の利用率が向上することにより、本施設だけでは利用客を向上することは難しいが、満空情報のHP掲載等、利用者の利便性向上に努める。
文化振興課	89	静岡市民文化会館再整備事業	R 1 -	市(直営)	開館後40年以上経過した静岡市民文化会館について、施設及び設備の更新並びに、静岡都心の芸術文化の拠点となることにも、市内外から多くの人を惹きつけ、周辺エリアの回遊性を高め、経済波及効果をもたらす施設となるよう、再整備を図る。	・再整備方針、再整備基本構想・基本計画の策定 ・PPP導入可能性調査 ・整備手法確定により必要となる業務の実施	①基本構想・基本計画策定 ②PPP導入可能性調査の実施 ③整備手法の確定 ④その他	①策定完了 ②調査完了 ③確定 ④実施	①策定完了 ②調査完了 ③確定 ④実施	一般	0	28,930	28,930	1.5	0.0	業務の完了	完了	未完了	完了	—	令和3年度は、令和2年度業務を繰越し、基本構想・基本計画の策定を予定しており、定量的評価が適当でないため、数値目標を設定しない。	完了	A	A	構想・計画を策定し、その内容を公表することができたため。	令和4年度は、基本設計業務及びPFIアドバイザー業務を実施し、PFI事業者の決定に向け、引き続き円滑に再整備事業を進めていく。
文化振興課	90	清水文化会館管理運営事業	H 24 - R 8	市(直営・委託)	市民に文化活動の場と芸術文化の鑑賞機会を提供することにより、市民の芸術文化の向上を図るとともに、文化を核とした清水都心の賑わい創出を図る。	PFI・指定管理者制度(利用料金制)による館の維持管理・運営(設備の維持管理、利用受付・貸出・案内・自主事業等)	①通知書送付件数 ②委託業務契約の締結件数(モニタリング支援) ③モニタリング実施回数 ④指定管理業務報告書、財務に関する報告書・検査件数	①1件 ②1件 ③3回 ④15回(維持管理・運営)1回(財務)	①2件 ②1件 ③3回 ④15回(維持管理・運営)1回(財務)	一般	268,559	8,037	271,664	1.0	0.0	①年間来館者数 ②ホール・ギャラリー利用率	①430,000人 ②65.0%	①73,954人 ②44.0%	①439,484人 ②83.5%	①454,260人 ②77.8%	「清水駅東地区文化施設整備及び維持管理・運営事業 運営業務仕様書」における事業期間第2ターム(平成29年度～令和3年度)で設定した目標値。	①181.11人 ②68.2%	①C ②A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者数が減少したことにより目標値に届かなかったが、その影響を除けば、多彩な芸術文化の鑑賞機会の提供や施設・設備の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、引き続き広報等により、施設の利用率の向上に努める。
文化振興課	91	文化振興計画進捗管理事業	H 28 -	市(直営)	静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例に基づき策定された静岡市文化振興計画の進捗管理を行う。	静岡市文化振興計画の進捗管理	審議会開催件数	4回	5回	一般	2,212	-	1,056	1.0	0.0	審議会への後期実施計画のR2年度実施報告及び評価審議の実施に伴う報告書の作成	完成	—	—	—	当該業務は計画の実施報告ならびに審議会での報告書完成を目標としており、定量的評価が適当でないため、数値目標を設定しない。	完成	A	A	現行の静岡市文化振興計画における成果の最終評価と、次期計画策定に向けた成果指標設定や基礎資料とするために市民意識調査を実施した。計画の骨子とその方向性も定まり、令和4年度末策定に向け順調な進捗管理であると言える。	令和4年度は、次期計画策定及び条例の一部改正に向けた議決を受け、冊子発行まで実施する。スケジュール管理を厳格にし、庁内及び市民の意向を十分に反映した内容となるよう、配慮していく。
文化振興課	92	文化振興審議会開催事業	H 29 -	市(直営)	静岡市創造及び交流によりまちの活力を生み出す文化の振興に関する条例に基づき、文化の振興に関する市の施策の総合的な推進を図るため、静岡市文化振興審議会を開催する。	静岡市文化振興審議会の開催	審議会開催件数	4回	5回	一般	2,212	-	437	1.0	0.0	審議会への後期実施計画のR2年度実施報告及び評価審議の実施に伴う報告書の作成	完成	—	—	—	当該業務は計画の実施報告ならびに審議会での報告書完成を目標としており、定量的評価が適当でないため、数値目標を設定しない。	完成	A	A	年間開催予定回数は4回であったが、調整の結果5回の開催が妥当であると判断し、実施した。内容も充実したものであり、目的は十分に達成されたと判断されるため。	令和4年度は次期計画策定に向けて充実した審議が必要であり、審議会の開催はその核となるものである。庁内の意思決定のタイミングと調整し、審議会ですべての審議を重ねていけるよう、注意が必要である。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など								
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工				⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容	
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	合計	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			実績値	達成度	R2	R1				H30
																		当該年度の目標値の算出根拠										
文化振興課	93	芸術文化奨励賞審査委員会開催事業	-	市(直営)	推薦を受けた静岡市芸術文化奨励賞の受賞候補者に係る審査を行うため、静岡市芸術文化奨励賞審査委員会を設置・開催する。	静岡市芸術文化奨励賞審査委員会の開催	審査委員会開催件数	1件	1件	一般	64	-	37	0.3	0.0	R3年度審査委員会への候補者資料作成及び審査会実施に伴う審査結果の発表	完了	-	-	-	当該業務は審査委員会開催ならびに審査結果発表の完了を目標としており、定量的評価が適当で無いため、数値目標を設定しない。	完了	A	A	令和3年度は募集要領を改定し、評価基準を公開した事により推薦候補者数が例年より多くなった。審査委員会は例年と同時期に開催され、受賞者3名を選出した。開催目的を十分達成しており、評価できるため。	次年度に向け、更新した募集要領に準じた的確な評価ができるよう、評価基準についても丁寧に調整を重ね、より精度の高い審査委員会となるよう努めていきたい。		
文化振興課	94	芸術文化奨励賞授賞式開催事業	H 15 -	市(直営)	静岡市芸術文化奨励賞の受賞者に記念品等を授与する授賞式を開催する。	静岡市芸術文化奨励賞授賞式の開催	授賞式開催件数	1件	1件	一般	184	-	365	0.3	0.0	R3年度授賞式開催準備及び受賞者への賞賜金等手配の完了	完了	-	-	-	当該業務は授賞式開催ならびに受賞者への賞賜金等手配の完了を目標としており、定量的評価が適当で無いため、数値目標を設定しない。	完了	A	A	令和3年11月4日に授賞式を開催し、3人の受賞者を輩出した。推薦者数が多かった事もあり、受賞者数も例年より多くなったが、式は恙なく開催され、目標が達成できたため。	受賞者増に伴い、予算額を上回る結果となった。例年、受賞者数は推薦状況に応じて変化するためその見込みが難しく、予算流用を伴う場合がある。事務に滞りが無いよう、配慮して進めていく必要がある。		
文化振興課	95	文化振興事業の実施経費	H 5 -	市(委託)	文化振興施策の一環として、様々な文化事業を効果的に実施し、本市の文化振興を図る。	「文化芸術アウトリチプログラム事業」「静岡市民芸術発表会」「オーケストラ鑑賞事業」「伝統文化ワークショップ」等の開催、「静岡市民文芸」の発行(文化活動委託)、静岡市芸術文化奨励賞の交付等	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③検取件数	①1件 ②12件 ③12件	①1件 ②12件 ③12件	一般	26,265	-	24,539	0.3	0.0	①「文化芸術アウトリチプログラム事業」訪問回数 ②「静岡市民文芸」一般応募者数 ③「静岡市民芸術発表会」参加団体数 ④「伝統文化ワークショップ」参加者数 ⑤「オーケストラ鑑賞事業」参加者数 ⑥「竹久夢二作品等展覧会」来場者数 ⑦「平野富山作品等の保管及び展示等業務」展示替回数	①8回 ②272人 ③40団体 ④120人 ⑤950人 ⑥1,270人 ⑦3回	①- ②261人 ③57団体 ④148人 ⑤508人 ⑥2,815人 ⑦3回	①- ②273人 ③133団体 ④218人 ⑤1,959人 ⑥778人 ⑦3回	①- ②281人 ③134団体 ④190人 ⑤2,891人 ⑥218人 ⑦3回	①予算の範囲内で実施が可能と判断される訪問数 ②過去3年間の平均値で設定 ③新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員を設けた数値を目標値として設定 ④新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員を設けた数値を目標値として設定(各回30人×4グループ) ⑤新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、席の間隔を確保した場合の収容人数(1,900席×50%=950人)で目標値を設定 ⑥過去3年間の平均値で設定 ⑦美術作品の保護の観点から予想値を算出し、目標値に設定	①9件 ②250人 ③67団体 ④120人 ⑤358人 ⑥3,661人 ⑦3回	①S ②A ③S ④A ⑤C ⑥S ⑦A	A	令和3年度新規事業である文化芸術アウトリチプログラム事業では、市立子ども園を初めとする市内9か所の施設において、和楽器を中心としたコンサートを実施し、施設及び参加者から高い満足度を獲得することが出来た。市民芸術発表会では、新型コロナウイルス感染症対策を行い、コロナ禍における文化芸術に携わる市民の「発表の場」を絶やす事なく提供することが出来た。	ホール事業であるオーケストラ鑑賞事業については、学校側からのキャンセルが相次ぎ、目標値に届く事が出来なかった。事業実施時期に感染症流行の波が重なること不可抗力で参加者数が減ってしまったため、実施する側としては難しい面があるが、より多くの参加者に安心して参加していただけるよう感染防止対策の実施と周知に努めていく。		
文化振興課	96	静岡市民文化祭企画運営業務	H 15 -	市(委託)	広く市民に創作発表および鑑賞の機会を提供することにより、芸術文化を一般に普及し市民文化向上を図る。	「静岡市民文化祭」の実施、委託契約	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③事務処理の円滑な実施	①1件 ②1件 ③実施	①1件 ②1件 ③実施	一般	3,272	-	3,270	0.3	0.0	静岡市民文化祭来場者数	10,000人	747人	20,132人	20,114人	R2年度は中止した事業が多かったため、R1年度の算出根拠に倣って算出。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、縮小開催(ホール部門を中止)した場合を想定して算出(R1実績:20,132人、R1のホール部門来場者数計10,598人、(20,132-10,598)=9,534人⇔10,000人)	10,658人	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により一部事業の開催を見送ったが、概ね予定通りに実施する事ができ、目標値を上回った。それぞれの事業で感染症対策を講じ安全に実施できたほか、市民の文化活動の発表の場を維持する事ができ、充実した内容であったため。	市民の公募型事業として運営しているが、新型コロナウイルスの影響もあり応募者数が減少している。今後はアフターコロナを見据え、十分に対策を講じながら若年層などの取り込みも視野に入れつつ、広く市民の発表の場となるよう調整していく必要がある。		
文化振興課	97	まちは劇場コンサート事業	-	市(委託)	市内で活動しているオーケストラ等と連携し、学校訪問コンサートや親子コンサートをを行い、音楽文化を通じてまちを活性化させることにより、「まちは劇場」を推進する。	①学校訪問コンサート ②子ども園訪問コンサート ③親子コンサートの実施	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③検取件数	①1件 ②1件 ③1件	①1件 ②1件 ③1件	一般	23,369	-	22,273	0.5	0.0	①学校訪問コンサート実施校数 ②子ども園訪問コンサートの実施園数 ③親子コンサート応募人数	①8校 ②14園 ③3,700人	①6校 ②24園 ③6,734人	①14校 ②1校 ③8,614人	①14校 ②1校 ③7,984人	①予算の範囲内で実施が可能とされる訪問数。 ②予算の範囲内で実施が可能とされる訪問数。 ③実施するホールの定員数(静岡文:1,968人、マリナート:1,513人、AOI:618人×2回)4,717人の80%である3,773人を予想値として算出し、3,700人を目標値とした。	①8校 ②18園 ③6,964人	①A ②S ③S	A	訪問コンサートでは多くの学校・子ども園に応募いただき実施することが出来た。本格的なオーケストラの曲目から子どもたちに馴染みのある曲まで迫力ある生演奏を子どもたちに届ける事が出来た。AOIの親子クラシックコンサートについては、応募までは実施したものの事業自体は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となった。	毎年多くの学校・子ども園から応募があるため、未実施校・園を優先に早期の実施を図っていく。		

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨成果指標(アウトカム指標)				⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容						
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(A)	指標名	当該年度の目標値				直近3か年の実績値			実績値	達成度	
文化振興課	98	第80期A級順位戦最終局静岡市実行委員会負担金	H 29 -	補助等(交付先)	徳川家康公とゆかりの深い将棋・囲碁を通じて、静岡市と家康公の繋がりを全国に向けて発信するとともに、静岡市における将棋・囲碁文化の振興と地域活性化を図る。	多面指し指導将棋、色紙サイン会、大盤解説会等、「A級順位戦最終局(第80期A級順位戦最終局)」を開催する。	負担金交付事務の円滑な実施	実施	コロナ禍において、感染症対策を充分に行いながら実施できた。	一般	7,000	-	6,973	1.0	0.0	①応募者数 ②来場者満足度	①900人 ②95%	①436人 ②93%	①1,170人 ②81%	①1,224人 ②85%	①新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として募集定員に対する応募者数を目標値として設定。 ②来場者アンケートの満足度の過去3か年平均から算出した目標値を設定した。	①948人 ②83%	①S ②B	A	新型コロナウイルス感染症対策を実施しながら、大盤解説会以外にも色紙サイン会や指導将棋等の関連イベントを実施することにしたことで、応募者数が目標を上回った。来場者満足度は感染症対策による受付や物販での待ち時間等が増加したことから目標値に届かなかったが、各イベントに関しては満足度が高い意見が寄せられていたため。	令和4年度についても引き続きコロナ禍での実施に伴い、参加者が楽しめるイベントづくりを行っていく必要がある。 なお、今回のアンケート結果では、女性参加者の比率が前回の33%から41%に伸び、幅広い方々への広報が成功し始めていると感じている。昨今の将棋ブームを注視しながら、今後も積極的な多方面への広報を行っていく。
文化振興課	99	囲碁事業補助金	R 2 -	補助等(交付先)	本市と囲碁の結びつきを市内及び国内外に広くアピールし、本市の地域活性化を図るとともに、観光交流の発展の一助とする。	①「今川義元杯市民囲碁大会」 ②「駿府囲碁まつり」	①補助金交付事務の円滑な実施 ②交付件数 ③報告書確認件数 ④検収・確定件数	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	一般	1,000	-	0	0.5	0.0	来場者数 ①今川義元杯静岡市民囲碁大会 ②駿府囲碁まつり	①214 ②280	①- ②-	①214 ②280	①- ②-	①令和元年度の実績値を基に設定。 ②令和元年度の実績値を基に設定。	①78人 ②-	①C ②-	A	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業を縮小して開催した。感染拡大の影響から参加者数も思うように伸びなかったが、滞りなく事業を実施する事が出来た。なお、実施事業縮小に伴い自主財源内での実施が可能となったため、決算額が0となっている。	若年層の参加者を増やすためのPR方法を広報手段と事業内容の両側面から検討していく。 ※令和4年度からは①②を1つのイベントとして実施。
文化振興課	100	市民ギャラリー管理運営事業	H 1 -	市(委託)	市民に文化に触れる機会と発表の場を提供し、文化の向上を図る。	ギャラリー利用者の受付管理、展示会予定表の作成、作業日誌の作成等の管理運営事務及びギャラリー使用料徴収業務	①業務委託契約の締結 ②業務委託完了報告書の確認 ③業務委託の検収	①1件 ②12件 ③1件	①1件 ②12件 ③1件	一般	7,496	-	7,419	0.0	0.5	年間利用率	68.36%	34.55%	68.36%	70.40%	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和元年度の実績値を目標値として設定。	59.10%	B	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、利用者が減少したことで目標値に届かなかったが、業務は適正に実施できたため。	利用率の向上を図るため、引き続き広報方法の検討・実施に取り組んでいく。
文化振興課	101	文化団体運営費補助金	-	補助等(交付先)	市民文化団体相互の連携協力を図り、広く市民芸術文化活動の向上に寄与している当該団体の活動を支援することにより、本市の文化振興を図る。	静岡市芸術祭の開催費用(会場費含む)、協会誌発行、運営費人件費含む)に対し補助金を交付する。	①補助金交付事務 ②補助金報告書確認件数	①1件 ②1件	①1件 ②1件	一般	14,508	-	14,508	0.3	0.0	①「静岡市芸術祭」来場者数 ②協会誌の発行数 ③協会の円滑な運営	①7,000人 ②1回 ③完了	①中止 ②1回 ③完了	①20,345人 ②1回 ③完了	①21,881人 ②1回 ③完了	①R2年度は中止となったため、R1年度の実績値をそのまま引用する。 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を行った上で、縮小開催した場合を想定して算出(R2出展部門におけるR1実績をもとに算出、R1実績:6,436人≒7,000人) ②予算の範囲内で実施できる発行回数は年間1回と考えられるため。 ③定量評価に値しないため、運営が滞りなく完了するかを基準とする。	①6,999人 ②1回 ③完了	①A ②A ③A	A	芸術祭については令和3年度は茶会を除く殆どの事業が予定通り実施でき、目標値にほぼ等しい実績を得る事ができた。協会誌の発行および協会の運営も円滑に行われ、目的は十分に達成できたと見える。	静岡市文化協会の所属団体は少子高齢化の影響で年々減少傾向にあり、今後は所属団体および団体の人数をどうやって確保していくかが課題となっている。SNS等のオンラインツールの活用をはじめ、多様な手段で活動を周知し、関心を高めていく必要がある。
文化振興課	102	芸術文化活動発表会参加奨励補助金	H 15 -	市(直営)	芸術文化分野の発表会出場者を称えと共に高レベルの目標を達成するための動機付けの一助とし、もって本市文化振興に寄与すること。	中部大会以上の規模の発表会・全国大会の出場者に補助金を交付する。	①交付決定案件数 ②報告書確認件数、検収・確定件数 ③広告誌による周知の件数	①40件 ②40件 ③1件	①19件 ②19件 ③1件	一般	1,500	-	711	0.0	0.2	中部大会以上の規模の発表会・全国大会出場者に補助金を交付した割合	100%	100%	100%	100%	補助金交付申請者に対し、確実に交付決定を行うこととして設定した。	100%	A	A	申請を受け付けた出場者全員に、決定通知、確定通知を送付し、補助金を交付することができたため、当初の目標値を達成した。	引き続き、広報活動を実施し、周知に努める。
文化振興課	103	文化振興事業補助金	H 19 -	補助等(交付先)	文化活動への支援を通じて、地域や学校・市民の交流を促進し、文化活動の裾野を広げ、本市の文化振興の一助とする。	「静岡市子どもミュージカル」への補助金交付	①補助金交付事務の円滑な実施 ②交付件数 ③報告書確認件数 ④検収・確定件数	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	一般	7,000	-	7,000	0.0	0.1	「子どもミュージカル」来場者数	2,258人	-	-	2,258人	直近の実績値から数値を決定した。	1,438人	C	C	新型コロナウイルス感染症の影響により来場者数が減少した。目標値はコロナ禍前の実績値から決定したため、目標値を達成できなかった。	集客につながるよう事業のターゲットを明確にし、それを確実に取り込むための事業内容の検討及び積極的な広報活動を促す。
文化振興課	104	文化振興事業補助金	H 1 -	補助等(交付先)	様々な文化活動への支援を通じて、地域や学校・市民の交流を促進し、文化活動の裾野を広げ、本市の文化振興の一助とする。	「静岡市民大音楽祭」「静岡菊花大会」への補助金交付	①補助金交付事務の円滑な実施 ②交付件数 ③報告書確認件数 ④検収・確定件数	①遅延なく補助金を交付 ②2件 ③2件 ④2件	①遅延なく補助金を交付 ②1件 ③1件 ④1件	一般	3,495	-	250	0.0	0.2	来場者数 ①静岡市民大音楽祭 ②静岡菊花大会	①1,280人 ②2,800人	①- ②2,808人	①1,600人 ②4,297人	①1,569人 ②4,417人	①新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、R1年度実績値の8割と設定。 ②新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、R2年度実績を基に設定。	①- ②3,116人	①- ②S	S	市民大音楽祭は新型コロナウイルス感染症の影響により事業中止となったが、菊花大会は目標値を上回る事ができた。	集客につながるよう各事業のターゲットを明確にし、それを確実に取り込むための事業内容の検討及び積極的な広報活動を促す。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費		⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					当該年度の目標値の算出根拠			実績値
文化振興課	105	羽衣まつり運営委員会補助金	S 59 -	補助等(交付先)	伝統文化の伝承と地域づくり及び静岡市の文化の振興、都市イメージの向上を図る。	毎年10月上旬に羽衣まつり開催のため、市民組織である運営委員会へ補助金を交付する。	補助金交付事務の円滑な実施 ①補助金の交付 ②補助金実績の検収、確定	①遅延なく補助金を交付 ②1件	①遅延なく補助金を交付 ②1件	一般	8,875	-	8,875	1.0	0.0	「三保羽衣薪能」来場者数	500人	-	-	640人	会場を変更し初の開催のため、会場の収容定員(550人)の9割を目標とする。	330人	C	B	三保松原文化創造センター「みほしるべ」前広場を新会場として初めての実施となった。参加者数については、新型コロナウイルス感染症の影響によりツアー催行が行われなかったため、思うように伸びなかったが、新会場における席の安定性向上により満足度の高い公演を提供する事が出来た。	新会場移行に伴い生じた、席配置等の新たな課題を次年度事業で解消すべく見直しを行っていく。コロナ収束後を見据えて、どのように参加者を確保していくか、広報先の開拓・検討を行っていく。
文化振興課	106	文化振興助成事業補助金	H 8 -	補助等(交付先)	市民等の文化活動を助成する活動を支援することにより、市の文化振興を図る。	「文化振興事業費助成制度」を実施する文化振興財団への補助金を交付する。	①補助金交付事務の円滑な実施 ②補助制度の周知のための説明会実施回数	①遅延なく補助金を交付 ②1回	①遅延なく補助金を交付 ②1回	一般	2,474	-	0	0.0	0.2	①申込件数 ②助成件数	①13件 ②10件	①15件 ②11件	①9件 ②9件	①15件 ②10件	①直近3か年の平均値より目標値を設定。 ②直近3か年の平均値より目標値を設定。	①15件 ②10件	①S ②A	S	本年度の申請件数は15件、すべての団体に交付が決定したが、助成金交付規程の一部改訂、見直し(他の補助金・助成金との併用不可)により交付辞退があったため、最終交付件数は10件となった。	申込及び助成件数ともに増加させるため、当該制度のPRを充実させるとともに、助成対象要件の緩和等について引き続き検討を促す。
文化振興課	107	中勘助文化学記念館管理運営事業	H 7 -	市(委託)	作家中勘助氏の業績の顕彰や市民の文化・文芸活動の場として広く市民の文化向上に寄与すること。	「中勘助文学記念館」の日常管理運営及び中勘助顕彰事業の実施。	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認・検収件数(管理運営月報12件)	①7件 ②12回	①8件 ②12回	一般	7,677	-	7,194	0.0	0.5	年間来場者数	1,690人	1,252人	2,116人	2,140人	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、令和元年度実績値の8割程度の来場者を想定。	1,695人	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少した来場者数は回復傾向にあり、業務も適正に実施できたため。	平成30年度から実施している「3館連携事業(現在は芹沢銈介美術館を加えた4館連携)」を活用し、藤枝市、焼津市、芹沢銈介美術館、静岡県立大学との連携を深め、施設のPRに努めていく。
文化振興課	108	文化活動事業継続支援補助金	R 3 -	市(直営)	国、静岡県知事又は静岡市長が新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために定めたガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで実施する市内会場での文化活動を開催する事業者に対し、補助金を交付し文化の持続的な振興を図る。	市内にある定員80人以上の会場がガイドラインに基づく新型コロナウイルス感染症対策を講じて、市民の鑑賞を目的とした文化活動を令和3年9月30日までの期間に1回以上実施する事業に対し、定員500人以下に会場を利用した場合2万円、定員500人を超える会場を利用した場合5万円を交付する。	①交付決定案件数 ②報告書確認件数	①481件 ②481件(予算上限に達し終了)	①80件 ②80件	一般	13,000	-	2,805	0.0	0.3	申請者に補助金を交付した割合	100%	単年度事業のため実績なし	単年度事業のため実績なし	単年度事業のため実績なし	補助金交付申請者に対し、確実に交付決定を行うこととして設定した。	100%	A	A	補助金交付申請者に対し、決定通知、確定通知を送付し、補助金を交付することができたため、当初の目標値を達成した。	単年度事業によりR3年度で終了した。
文化振興課	109	静岡音楽館管理運営事業	H 7 -	市(直営・委託)	市民の音楽に対する関心を高め、市民文化の向上を図る。	指定管理者制度による施設の維持管理を行うとともに、多くの市民が音楽文化に触れる機会を提供するため、各種コンサートや講座を実施する。	①協定書締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検収件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②3回 ③13回	一般	363,295	5,030	359,111	1.0	0.0	①施設利用率(年間平均) ②定員に対するコンサート入場者数の割合(年間平均)	①84.0% ②70.0%	①60.1% ②75.8%	①77.0% ②67.7%	①83.5% ②69.2%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	①68.7% ②54.7%	①B ②B	A	活動指標については達成することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、コンサートの一部中止や、利用率が減少したことで、目標値には届かなかったが、それを除けば事業計画に従い概ね良好に実施されていたため。	施設利用者の裾野を拡大するため、市民の鑑賞機会拡大や地域の音楽家の支援・育成を図り、事業内容を充実させていくことで、施設利用率向上と利用者数の増加に努めていく。
文化振興課	110	静岡科学館管理運営事業	H 15 -	市(直営・委託)	市民が自ら体験することを通して身近な科学への関心を高める場を提供することにより、市民の創造力及び感性の向上に資する。	指定管理者制度による施設、展示物の維持管理を行うとともに科学の実演会及び講座を実施する。	①協定書締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検収件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②3回 ③13回	一般	327,067	1,770	327,645	1.0	0.0	①年間来館者数 ②連携事業回数	①255,000人 ②100回	①76,132人 ②114回	①219,830人 ②148回	①245,951人 ②123回	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	①110,813人 ②185回	①C ②S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業の中止や利用者数が減少したことで来館者数は目標値に届かなかったが、その影響を除けば、施設・展示物の適切な維持管理等、業務は適正に実施できていたため。また、連携事業回数については目標値を上回る回数を実施した。	感染症対策を行いながら施設を運営するとともに、展示物を活用した広報活動等により来館者の確保に努める。
文化振興課	111	サイエンスキッズ育成事業	H 29 -	市(委託)	5市2町が連携し、圏域内の子ども達に対し、科学に触れる機会を提供することで、次世代の科学振興の担い手となる人材を育成する。	「あつまれ！ふしぎひろば」の実施、「あつまれ！ふしぎひろば」参加団体支援事業の実施等	①委託契約締結件数 ②完了報告書確認件数 ③検収件数	①1件 ②1件 ③1件	①1件 ②1件 ③1件	一般	4,500	-	4,499	0.5	0.0	来場者数	200人	289人	1,538人	2,858人	R3募集人数がR2年度と同水準になると想定し設定。(静岡会場50人×2回(AM・PM)+藤枝会場50人×2回(AM・PM))	2,570人	S	S	令和3年度はコロナの影響により令和2年度と同様に事業を縮小する可能性を見越し目標値を設定したが、コロナ前と同程度の内容で開催できた。そのころと比較しても十分な入場者があり、また参加団体支援事業も充実した内容となったため。	サイエンスキッズ育成事業は中部連携中枢都市圏ビジョンの登載事業であり、5市2町の連携を目的とした5カ年計画の事業である。令和3年度はこの最終年度であり、令和4年度以降は実施しない。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費		⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(A)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度	
文化振興課	112	静岡市美術館管理運営事業	H 22 -	市(直営・委託)	多様な美術表現を広く市民に公開し、静岡市の特色ある美術文化の創造と発信を行い、美術に関する市民の知識及び教養の向上を図る。	指定管理者制度による施設の維持管理を行うとともに、多くの市民が芸術文化に触れる機会を提供するため、企画展示や講座を実施する。	①協定締結件数 ②モニタリング実施回数 ③指定管理業務報告書・検査件数	①1件 ②3回 ③13回	①1件 ②3回 ③13回	一般	336,486	2,070	333,559	1.0	0.0	①累計入館者数(150万人・R2～R6) ②展覧会事業における来場者満足度(年間平均)	①30万人(150万人/5年) ②85%	①235,248人 ②92.8%	①1,510,545人 ②86.7%	①1,255,217人 ②86.5%	過去の実績をもとに指定管理者と調整の上、協定締結時の仕様書内で設定した目標値	①191,275人(426,523人/R2～R3累計) ②94.8%	①C ②S	A	活動指標については達成することができたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、入館者数が減少したことで、目標値には届かなかったが、それを除けば展覧会事業における来場者満足度は目標値を大きく上回っており、事業計画に従い概ね良好に実施されていたため。	コロナ禍での経験をもとに効果的な広報手段を検討ことや、事業内容の充実を図ることにより、入館者数の増加に努めていく。
文化振興課	113	芹沢銈介美術館協議会開催事業	S 56 -	市(直営)	芹沢銈介美術館協議会で聴取した意見等を施設の管理運営に反映し、効率的経営、市民サービスの向上を図る。	静岡市博物館条例に基づき、美術館協議会委員による会議を開催する。	協議会開催件数	2回	2回	一般	230	-	161	1.0	0.5	①年間観覧者数 ②観覧者満足度	①24,000人 ②97%	①11,994人 ②98.8%	①16,635人 ②97%	①16,128人 ②97%	①令和3年度は開館40周年を迎えるため、記念展等の開催や広報活動の強化による観覧者増を見込んで設定した。 ②観覧者アンケートの満足度の直近3か年の平均を考慮し設定した。	①28,013人 ②95.2%	①S ②A	S	来館者数の増加と来館者の満足度が高い水準を維持できたため。	コロナ禍の影響を考慮しつつ、新たな情報発信に取組む等、館の認知度向上に努めていく。
文化振興課	114	芹沢銈介美術館管理運営事業	S 56 -	市(直営)	静岡市名誉市民であり型絵染の人間国宝・芹沢銈介の芸術を永く後世に伝える。美術に関する知識の向上と文化の発展に寄与する。	芹沢銈介の型絵染の作品等や芹沢銈介が収集した世界各国の工芸品の展示を行うとともに、講座や講演会等教育普及事業を実施する。	①企画展の開催件数 ②講演会・講座等教育普及事業の開催件数 ③開館日数	①4回 ②15回 ③255日	①4回 ②18回 ③255日	一般	48,825	160	40,695	2.0	2.5	①年間観覧者数 ②観覧者満足度	①24,000人 ②97%	①11,994人 ②98.8%	①16,635人 ②97%	①16,128人 ②97%	①令和3年度は開館40周年を迎えるため、記念展等の開催や広報活動の強化による観覧者増を見込んで設定した。 ②観覧者アンケートの満足度の直近3か年の平均を考慮し設定した。	①28,013人 ②95.2%	①S ②A	S	来館者数の増加と来館者の満足度が高い水準を維持できたため。	コロナ禍の影響を考慮しつつ、新たな情報発信に取組む等、館の認知度向上に努めていく。
スポーツ振興課	115	蒲原東部・西部コミュニティセンター管理運営事業	H 18 -	市(直営)	市民の自治意識の向上、健康の増進及び生活文化の振興のために、身近な地域における交流の場を提供する。	施設の維持管理を行う。	①各種委託契約締結件数 ②施設の小破修繕の実施	①6件 ②適宜	①6件 ②8件	一般	7,919	-	6,434	0.4	0.1	利用者数	14,357人	10,153人	16,205人	14,663人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	10,858人	B	A	目標値は下回ったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮した上で、前年度実績を上回る利用者数の確保及び必要な契約・修繕の実施による維持管理ができたため。	引き続き、地元自治体と連携・調整を図り、適正な維持管理を継続して行う。
スポーツ振興課	116	野外活動施設管理事業	-	市(直営・委託)	気軽に自然と触れ合える環境を整備することにより、市民の健康増進とレクリエーションの振興を図る。	キャンプ場、ハイキングコースの維持管理を行うとともに、活動の場の安全対策を図る。	①土地賃貸借契約締結件数 ②謝金の支払件数 ③ハイキングコースの整備	①41件 ②70件 ③実施	①41件 ②70件 ③実施	一般	47,529	-	45,097	2.0	0.2	キャンプ場利用者数	5,392人	4,674人	5,493人	5,241人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	5,171人	A	A	目標値には到達しなかったが、8.9月の緊急事態宣言による閉館期間を除けば、概ね目標どりの利用者数を維持できたため。	協議会や関係者と連携し、管理体制を強化し、適切な事業運営を実施する。
スポーツ振興課	117	興津川キャンプ対策協議会負担金	S 61 -	補助等(交付先)	気軽に自然と触れ合える環境を整備することにより、市民の健康増進とレクリエーションの振興を図る。	キャンプ客の多い7月から9月まで、4箇所のキャンプ適地に管理人を配置し、興津川キャンプ対策協議会で維持管理を行う。	①負担金支払に係る事務等の実施 ②総会の開催補助	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	4,524	-	4,524	0.2	0.1	利用者数	23,316人	27,865人	19,424人	19,331人	過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	23,295人	A	A	目標値とほぼ同数の利用者数となった。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、協議会関係者と連携し適切な運営管理を実施したため。	協議会や関係者と連携し、適正な事業運営を継続して行う。アウトドアブームにより利用者が増加傾向にあり、今後は管理期間以外の利用者の対応も検討する必要がある。
スポーツ振興課	118	スポーツ施設予約システム管理事業	H 21 -	市(直営・委託)	インターネットを活用したサービスを提供することにより、各種スポーツ施設予約の利便性向上を図る。	①利用者登録 ②抽選申込み ③空き施設検索、予約申込 ④利用許可書発行	①利用者登録 ②システム運用の円滑な実施	①随時 ②実施	①実施 ②実施	一般	15,726	-	15,151	1.0	0.4	アクセス件数	1,900,000件	1,632,701件	1,535,928件	1,559,365件	R1、R2は災害や新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休館等により、アクセス件数が少なかったが、R3はワクチンの普及等により影響が少ないことが予想されるため、H29の実績値(1,878,653件)の近似値を目標値として設定した。	1,933,070件	A	A	新型コロナウイルス感染症の影響により施設の時短営業を行っていたにもかかわらず、アクセス件数は目標を達成したため。	引き続き利用状況を把握し、利用者が増加するよう取り組んでいく。
スポーツ振興課	119	ふれあい健康増進館ゆ・ら・ら管理運営事業	H 18 -	市(委託)	市民が気軽に楽しく心身のリフレッシュに努めることにより、世代間の交流の促進を図るとともに、市民の健康増進に寄与する施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに健康増進に関するスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②入退館管理システム賃貸借契約	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	256,749	-	256,162	0.6	0.1	①利用者満足度 ②利用者数	①95.0% ②199,814人	①- ②125,816人	①- ②214,361人	①- ②230,722人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	①96.0% ②149,089人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。

①所属 課名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨成果指標(アウトカム指標)				⑩1次 評価	⑪ 評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容						
							指標名	当該年度の 目標値	実績値	会計	予算額 (千円)	前年度 からの 繰越額 (千円)	決算額 (千円)	正 職員 (人)	合計 年度 任用 職員 (人)	指標名	当該年度の 目標値				直近3か年の実績値			実績値	達成 度	
																					R2	R1	H30			当該年度の目標値の算出根拠
スポーツ振興課	120	スポーツ施設維持管理事業	H 18 -	市(直営・委託)	スポーツ、レクリエーション等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ教室等を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①3件 ②実施	①3件 ②実施	一般	250,043	—	219,131	4.8	4.5	①指定管理施設における利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 929,929人	① 94.7% ② 775,244人	① 94.3% ② 934,623人	① 94.5% ② 947,072人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.4% ② 711,994人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	121	清水庵原球場管理事業	H 17 -	市(委託)	野球等のスポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	53,038	—	52,148	0.2	0.1	①利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 82,178人	① — ② 37,039人	① — ② 94,709人	① — ② 103,045人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.7% ② 88,801人	①A ②A	A	利用者満足度及び利用者数とも目標を達成し、必要な協定及び修繕についても計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	122	体育館管理運営事業	S 42 -	市(直営・委託)	スポーツ、レクリエーション、文化活動等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件(総合運動場含む) ②実施	一般	680,865	—	667,695	1.2	0.2	①指定管理施設における利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 806,460人	① 98.5% ② 570,842人	① 98.6% ② 868,425人	① 97.2% ② 864,909人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.4% ② 678,211人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	123	総合運動場管理運営事業	H 18 -	市(委託)	スポーツ、レクリエーション、文化活動等のための施設を提供する。	施設の維持管理を行うとともに、市民向けに様々なスポーツ等教室を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件(体育館含む) ②実施	一般	452,378	—	449,533	2.0	0.1	①利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 319,796人	① 98.8% ② 239,619人	① 98.3% ② 336,871人	① 97.8% ② 337,215人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 99.3% ② 277,623人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	124	日本平運動公園管理事業	S 61 -	市(委託)	プロサッカー等の開催によるスポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、Jリーグ及び各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	151,230	—	130,926	0.3	0.1	①利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 271,585人	① — ② 129,510人	① — ② 319,479人	① — ② 326,968人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.9% ② 238,852人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	125	清水ナショナルトレーニングセンター管理運営事業	H 13 -	市(委託)	サッカー等、国内外のトップアスリートの利用に供するとともに、スポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	施設管理を行うとともに、各種事業を開催する。	①協定締結件数、年度評価件数 ②政策修繕の実施	①2件 ②実施	①2件 ②実施	一般	205,497	—	204,924	0.3	0.1	①利用者満足度 ②利用者数	① 95.0% ② 198,104人	① — ② 136,370人	① — ② 203,496人	① — ② 226,143人	①協定締結時の仕様書上の目標値90%に5%を加えたものを目標値として設定した。 ②過去3か年の利用者数の平均値の5%増を目標値として設定した。	① 98.0% ② 154,333人	①A ②B	A	利用者満足度は目標達成した。まん延防止等重点措置を受け、8月から9月の一定期間において、全館時短営業したこと及びその後も利用制限を行ったことにより、利用者数は目標値を下回ったものの必要な協定及び修繕は計画通り実施できたため。	引き続き利用状況を把握し、今後も利用者満足度を高い数値で維持していく。指定管理者と連携し、適切な管理を実施する。
スポーツ振興課	126	国際大会等スポーツ競技大会出場報奨金	H 22 -	補助等(交付先)	国際大会等に出場する栄誉を讃え、市のスポーツ振興及び市民の健康増進を図る。	国際大会等に出場するスポーツ選手が所属するスポーツ団体等に対し、報奨金を交付する。	①体育協会加盟団体への申請事務説明会の円滑な実施 ②報奨金交付に係る事務処理の円滑な実施	①実施 ②実施	①2件 ②実施	一般	1,650	—	1,800	0.2	0.0	交付件数	29件	0件	25件	40件	実施した過去3年間(H29～R1)の平均値を目標値として設定した。	2件	C	A	新型コロナウイルスの影響から、国際大会の出場が難しいため、交付件数は目標を達成しなかったが、当該事業の交付対象の国内大会には出場・交付したため。	引き続き、国際大会等出場者へ報奨金を交付していく。制度を知らず、申請しない団体も多いため、競技団体へ制度の周知も行う。
スポーツ振興課	127	各種目別全国大会出場選手補助金	H 16 -	補助等(交付先)	スポーツ選手を育成及びスポーツ団体等によるスポーツ活動を支援し、スポーツの振興を図る。	市を代表して全国的な規模及び水準で開催されるスポーツ競技大会に出場するスポーツ選手が所属するスポーツ団体等に対し、補助金を交付する。	①体育協会加盟団体への申請事務説明会の円滑な実施 ②補助金交付に係る事務処理の円滑な実施	①実施 ②実施	①123件 ②実施	一般	7,540	—	5,075	0.2	0.0	交付件数	113件	38件	136件	165件	過去3年間の平均値を目標値として設定した。	123件	S	S	交付件数は目標を達成。コロナウイルスの影響はあるものの、全国規模の大会が各地で開催されたため、市内選手も数多く大会に出場した。	引き続き、全国大会出場者へ補助金を交付していく。補助金制度を知らず、申請しない団体も多いため、競技団体へ制度の周知も行う。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工				⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	合計年度任用職員(A)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			実績値	達成度					
																		R2	R1	H30			当該年度の目標値の算出根拠				
スポーツ振興課	128	スポーツ推進審議会事業	-	市(直営)	静岡市スポーツ推進計画に基づき、市民のスポーツ推進を図る。	スポーツ基本法第31条の規定に基づき、地方スポーツ推進計画その他のスポーツの推進に関する重要事項を調査審議する。	①審議会の開催 ②会議録の作成及び公表	①3回 ②3回	①3回 ②3回	一般	478	-	366	0.4	0.0	諮問に対する答申書の提出	実施	諮問に対する意見の検討	実施	諮問に対する意見の検討	審議会委員は2年を任期とし、市教育委員会の諮問を受け、審議内容を答申書としてまとめている。	実施	A	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和3年度第3回審議会が書面による開催としたものの、それ以外は計画通り審議会を開催したため。	・スポーツ実施率の向上に加え、「みる」スポーツや「支える」スポーツの推進も含めた諸方策の更なる検討が求められる。 ・令和5年度開始のスポーツ推進計画策定をふまえた審議が必要である。	
スポーツ振興課	129	スポーツ推進委員関連事業	H 16 -	市(直営)	スポーツ推進委員が地域で活動することにより、市の掲げる目標である“市民一人1スポーツ”を推進する。	・委員報酬の支払い ・連絡協議会への補助金交付 ・ニューススポーツイベントの開催 ・推進委員向け研修会の受講促進	①研修会の円滑な開催 ②ニューススポーツ普及のイベントが円滑に実施できるよう支援	①2回 ②14回	①中止 ②3回	一般	8,874	-	1,963	2.4	0.0	参加者数 ①チャレンジ！スポーツワーカー(1回) ②チャレンジ！スポーツDAY(4回) ③ニューススポーツ交流大会(9回)	①307人 ②延べ350人 ③1,112人	①115人 ②中止 ③中止	①中止 ②延べ332人 ③1218人	①464人 ②延べ321人 ③1130人	実施した過去3年間(H29～R1)の平均値を目標値として設定した。	①中止 ②125人 ③67人	①- ②C ③C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、チャレンジ！スポーツワーカーは中止となった。その中でも、チャレンジ！DAY2回やビーチボール大会については、感染症対策を講じた上で開催することができたため。	・学区や地区でニューススポーツ大会の開催を望む声があり、スポーツ推進委員を中心に地域での普及が事業にも力を入れていく必要がある。 ・運営方法やルールの徹底、新種目の導入など、課題に対して推進委員同士の連携を図って改善していく。	
スポーツ振興課	130	葵区民体育大会 駿河区民体育大会	H 15 -	市(直営)	「市民一人1スポーツ」を具現化する場として、「いつでも、どこでも、誰でも、気軽に」をスローガンに、見て楽しい、やってみると楽しい、支えて楽しい体育大会を通じて、各区を元気にする。	7月から10月の間に、ニューススポーツの部4回(葵2・駿河2)と「大運動会」2回(葵1・駿河1)を実施する。	①実行委員会の円滑な開催 ②運営委員会の円滑な開催 ③各大会の円滑な開催	①2回 ②8回 ③6回	①2回 ②5回 ③3回	一般	3,539	-	578	0.6	0.0	参加者数 ①葵区民体育大会 ②駿河区民体育大会	①4,290人 ②1,944人	①中止 ②中止	①3,915人 ②167人	①3,789人 ②1,970人	ニューススポーツ2種目は葵区390人、駿河区で144人の参加目標とした。「大運動会」は各学区、地区で100名規模の大会を目指したことから、葵区3,900人駿河区1,800人として算出した。	①213人 ②56人	①C ②C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、各区「大運動会」及び駿河区「ファミリーバドミントン」が中止となった。しかし、葵、駿河区計3種目のニューススポーツの部について、感染症対策を講じた上で開催することができた。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での開催方法を検討していく。	
スポーツ振興課	131	各種スポーツ教室	-	市(直営)	競技人口の拡大と各種目の競技力向上及び、“市民一人1スポーツ”の推進を図る。	幼児や小学生または、初心者を対象としたスポーツ教室を開催する。	①教室の円滑な開催(初心者) ②教室の円滑な開催(クライミング) ③教室の円滑な開催(陸上教室)	①24回 ②6回 ③3回	①4回 ②9回 ③9回	一般	1,272	-	1,018	0.5	0.0	①初心者スポーツ教室の参加者数 ②クライミング教室の参加者数 ③陸上教室の参加者数	①延べ720人 ②延べ216人 ③440人	①89人 ②中止 ③520人	①367人 ②88人 ③360人	①延べ541人 ②未実施	①各種目の定員の合計を目標とした。 ②定員×教室数を目標とした。 ③過去2年間の平均値を目標とした。	①96人 ②87人 ③358人	①C ②C ③A	B	各種教室は、新型コロナウイルス感染症の影響により、教室の開催が減少し、参加者数が目標値に達しなかったため。	初心者スポーツ・クライミング教室では、その在り方や事業内容を検討し、事業目的の達成に効果的なものになるよう改善を図る。陸上教室においては、未実施の学校を中心に積極的な周知を図って実施していく。	
スポーツ振興課	132	指導者向け講習会	S 55 -	市(直営・委託)	各分野の専門講座を開き、指導者が正しい知識と指導法を習得するための学習の場を提供することで、指導者の育成と資質向上を図る。	大学教授や医師、インストラクター等を招いて基本的な指導法の習得を図るための講習会を開催する。	①スキルアップ講習会の開催 ②学校プール監視員講習会の円滑な開催	①6回 ②2回	①6回 ②2回	一般	67	-	32	0.3	0.0	参加者数 ①スポーツ指導者スキルアップ講習会 ②学校プール監視員講習会	①180人 ②193人	①延べ177人 ②中止	①延べ121人 ②169人	①延べ83人 ②197人	①静岡市スポーツ推進計画の目標値を基に設定した。 ②実施した過去3年間(H29～R1)の平均値を目標値として設定した。	①97人 ②96人	①C ②C	B	両講習会とも目標の参加人数を下回ったため。スキルアップ講習会において目標人数の半数減少した要因の一つとして、募集期間が緊急事態宣言と重なったことが考えられる。	スキルアップ講習会では、参加者アンケートにおいて満足度が約98%と高い水準だった。参加者にとっては満足度の高い内容のため、より参加者が増えるよう、委託先の静岡市スポーツ協会と周知方法の検討を行っていく。プール監視員講習会では、利用団体に対する周知を徹底して行い、参加者増加に繋げる。	
スポーツ振興課	133	学校等体育施設利用事業	-	市・補助等(直営・交付先)	学校施設を利用することで、地域住民のスポーツ活動への参加機会を創出し、地域のスポーツ活動を推進する。	学校ごとに、学校等体育施設利用運営協議会を置き、利用団体の登録や利用調整を行う。	①事務担当者説明会の円滑な開催 ②夜間照明施設の小規模修繕の実施	①実施 ②適宜	①未実施 ②実施	一般	77,441	-	75,260	0.9	1.0	①利用件数 ②利用者数	①80,907件 ②1,848,528人	①71,171件 ②1,569,032人	①83,834件 ②1,917,514人	①87,717件 ②2,059,040人	過去3年の実績の平均値を目標値として設定した。	①79,448件 ②1,687,568人	①A ②A	A	緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を受けて利用制限を行ったことにより、目標値は達成しなかったが、その影響を除けば、概ね期待どおりの利用を維持できたため。	中心部の学校の利用は飽和状態にあるため、近隣や山間部の協議会との連携を促し、多くの市民が利用できるようにする。	
スポーツ振興課	134	静岡市民大会等開催業務	H 29 -	市(委託)	各種市民大会等を開催することにより、市民のスポーツ実施の機会創出と健康づくりを促し、“市民一人1スポーツ”の推進と競技力の向上を図る。	各競技団体を主管として各種目別大会やラジオ体操祭を開催する。(H15から事業実施、H29から委託)	①適切な委託事務の実施 ②実施大会の効果的な広報の実施 ③参加者を増やすための体育協会との打合せの実施	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③未実施	一般	9,200	-	6,808	0.3	0.0	①各種市民大会開催競技団体数 ②各種市民大会参加者数 ③ラジオ体操祭参加者数	①31団体 ②48,000人 ③2,600人	①18団体 ②25,064人 ③中止	①31団体 ②39,531人 ③1,378人	①31団体 ②46,856人 ③中止	静岡市スポーツ推進計画の目標値をもとに設定した。	①22団体 ②23,949人 ③中止	①C ②C ③-	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、市民大会を開催できなかったが、実施された大会への補助は適正に執行できたため。	今後も委託先の静岡市スポーツ協会を通して競技団体と連携を図り、大会の見直しや効果的な広報を図ることで、参加者の増加を目指す。	
スポーツ振興課	135	市体育協会補助金	H 18 -	補助等(交付先)	(公財)静岡市体育協会のスポーツの普及・振興を図るための事業実施を支援する。	(公財)静岡市体育協会へ補助金を交付し、スポーツの普及・振興を図るための事業を実施する。	①補助金交付事務の円滑な実施 ②参加者を増やすための体育協会との打合せの実施	①実施 ②適宜	①実施 ②実施	一般	16,512	-	13,687	0.2	0.0	参加者数 ①体協ウォーキング ②スポーツ講演会	①67人 ②281人	①中止 ②161人	①127人 ②359人	①43人 ②325人	①実施した過去3年間の実績の平均値を目標に設定した。 ②過去3年の実績の平均値を目標とした。	①中止 ②154人	①- ②C	A	スポーツ講演会について、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、人数制限をしたことにより、参加者数が減少したが、この影響を除けば概ね目標どりの実績値であるため。	日頃、スポーツを行わない市民に対し、いかにスポーツを実施してもらうか、事業の内容とその周知方法について、静岡市スポーツ協会と協議し、参加者の増加を図っていく。	

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨成果指標(アウトカム指標)				⑩1次評価	⑪評価理由	⑫今後の課題と課題解決に向けた取組内容						
							指標名	当該年度の目標値	実績値	会計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値				直近3か年の実績値			実績値	達成度	
																					R2	R1	H30			当該年度の目標値の算出根拠
スポーツ振興課	136	清水区連合体育会補助金	-	補助等(交付先)	補助金交付により、地区の体育大会や各種スポーツ大会を開催し、より多くの市民がスポーツに参加できるようにする。	清水区民体育大会、各地区運動会、各種スポーツ大会を開催するため、清水区連合体育会に補助金を交付する。	①補助金交付事務処理の円滑な実施 ②清水区民体育大会の円滑な開催 ③その他8つの事業の円滑な開催	①実施 ②実施 ③8回	①実施 ②中止 ③4回	一般	4,376	-	3,396	0.1	0.0	参加者数 ①清水区民体育大会 ②その他8つの事業	①3,400人 ②1,719人	①中止 ②中止	①台風のため未実施 ②1,574人	①3303人 ②1605人	①静岡市スポーツ推進計画の目標値をもとに設定した。 ②実施した過去3年間の実績をもとに設定した。	①中止 ②523人	①- ②C	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、清水区民体育大会が中止となり、その他事業についても参加者数が目標値に届かなかったが、実施された事業への補助は適正に執行できたため。	新型コロナウイルス感染症対策を講じた上での開催方法を検討していく。
スポーツ振興課	137	葵区及び駿河区地域スポーツ振興事業補助金	S 58 -	補助等(交付先)	地域のスポーツ活動を支援し、市の掲げる目標である“市民一人1スポーツ”の推進をする。	地域のスポーツ活動を支援し、スポーツ振興を図るために運動会等を開催する葵区及び駿河区の小学校区の自治会連合会に対して補助金を交付する。	①補助金交付事務処理の円滑な実施 ②学区体育行事年間計画書、報告書の集計	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	3,000	-	268	0.2	0.0	スポーツ振興事業実施事業数	211事業	53事業	290事業	290事業	過去3年間の平均値を目標値として設定した。	67事業	C	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、多くの地区で事業が中止となり事業数が減少したが、実施された事業への補助は適正に執行できたため。	地域のスポーツ活動が活性化し、より多くの市民が参加できるよう、更なる制度の周知を図る。
スポーツ振興課	138	静岡県市町対抗駅伝競走大会選手強化事業補助金	-	補助等(交付先)	静岡市の市民意識の高揚、市民スポーツの振興を図ると同時に長距離選手の発掘育成を行う。	本市代表チームの選手選考、強化を行うため、静岡市陸上競技協会に補助金を交付する。	①事務処理の円滑な実施 ②担当者説明会への出席回数	①実施 ②2回	①実施 ②2回	一般	1,895	-	1,895	0.3	0.0	参加チームの順位	静岡:3位 清水:14位	静岡:7位 清水:16位	静岡:2位 清水:12位	静岡:2位 清水:15位	過去3年間の平均値を目標値として設定した。	静岡:11位 清水:5位	B	B	静岡チームは目標の順位を下回ったものの、清水チームは目標の順位を大きく上回る結果となったため、どの年のどの年代においても、レベルの高い選手を選出できるように、競技力向上が不可欠である。	現状では好成績を残しているが、今後、全市的な陸上競技人口減少(特に長距離)や、レベルの低下が心配されるため、競技人口増加及び競技力向上の方法について市陸協と連携し、検討を行う必要がある。
スポーツ交流課	139	台湾スポーツ交流事業	H 26 -	市(直営)	スポーツをはじめとした交流の推進やシンセーラースにより、本市と台湾との交流人口の拡大を図るとともに、新たなスポーツ交流を通じて、選手の競技力や指導者の資質向上及び、国際感覚豊かな人材育成を図る。	①静岡マラソンと友好関係にある台北マラソンとの交流事業の実施 ②台北市との新たなスポーツ交流事業の実施	①遅延なく円滑な実施 ②台北市との新たなスポーツ交流事業の覚書締結 ③台北市との指導者交流の実施	①実施 ②実施 ③実施	①一部実施 ②実施 ③実施	一般	2,025	-	195	0.2	0.0	①静岡マラソンに参加する台湾からのエントリー数 ②台北市との指導者の派遣・受入の準備 ③台北市との指導者の派遣・受入の実施	①130人 ②実施 ③各1回	①- ②- ③-	①126人 ②- ③-	①91人 ②- ③-	①過去3年間の最高値と同等の数字を目指すため、令和元年度実績値と同程度の参加者数を目標値とした。 ②コロナ禍の中で台北市との指導者派遣及び指導者受入が着実に実施できるよう準備することを目標とした。 ③台北市との事前打ち合わせに基づき、台北市への指導者派遣を1回、台北市からの指導者受入を1回実施することを目標値とした。	①- ②実施 ③-	①- ②A ③-	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、静岡マラソン2022大会が中止となった。また、台北市とのバスケットボール指導者交流についても、新型コロナウイルス感染症の影響により派遣・受入は実施できなかったが、台北市と交流に向けての準備を行い、オンラインによる指導者同士の交流を実施し、お互いの指導方法等を把握するとともに、今後の相互派遣に向けた協議が実施できたため。	コロナ禍における事業実施であったため、指導者交流がオンラインによる実施になる等の課題もあった。令和4年度も引き続きコロナ禍での事業実施が想定されるため、選手の競技力や指導者の資質向上及び、国際感覚豊かな人材育成が図れるような実施方法を検討していく。
スポーツ交流課	140	オリンピック・パラリンピック合宿等誘致事業	H 27 - R 3	市(直営・委託)	合宿誘致を契機に、ホストタウン相手国・地域等との交流(人的・経済的・文化的)を推進するほか、本市の魅力や存在感を国内外に広く発信する。また、相手国・地域との国際交流を通じ、児童生徒等の国際意識を高め、今後の交流の担い手となる人材育成を図る。	合宿誘致に加え、コロナ禍、ホストタウン相手国・地域の合宿受入れが急遽中止になる中、相手国・地域とのつながり維持・強化に向けた各種事業の実施	合宿誘致、ホストタウン関連業務の円滑な実施	実施	実施	一般	45,395	13,943	34,647	5.0	0.2	①市内での合宿実施数(代表クラスの強化合宿を含む) ②ホストタウン理解推進講座への参加校	①5件 ②7校	①2件 ②7校	①7件 ②-	①11件 ②-	①過去の合宿実施団体に対する働きかけのほか、新たな団体の合宿誘致にも取り組むが、コロナ禍における合宿となるため、令和元年度及び2年度の平均値を目標値とした。 ②令和2年度実施校(7校)と同数を目標値とした。	①4件 ②7校	①B ②A	A	①新型コロナウイルス感染症の影響により予定していた3つのホストタウン相手国・地域の合宿が中止となり目標値を下回ったが、フランス代表チームや、車いすバスケットボール男子日本代表チーム等の合宿の受入れを行うことができた。 ②目標値を達成するとともに、講座を通じて、ホストタウンとしての取組の周知だけでなく、キャリア教育・国際理解教育の授業の一環として実施することができた。	合宿受入れについては、国内代表チームの合宿が継続的なものになるよう取り組んでいく。また、ホストタウン理解推進講座は、これまでどおりの東京2020大会に向けた機運醸成のためではなく、キャリア教育・国際理解教育という内容をより深めたものとする必要がある。
スポーツ交流課	141	静岡野球ウィーク開催事業補助金	H 31 -	補助等(交付先)	静岡野球ウィークを支援することにより、野球を通じた静岡市のプレゼンスの向上及びスポーツツーリズムの推進並びに市民の野球熱の向上を図る。	①開催に伴う関係機関との調整 ②当該団体への補助金の交付	①補助金交付に係る事務処理の円滑な実施 ②団体の運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	5,000	5,000	6,860	0.1	0.0	①市内宿泊者数 ②全日本少年春季軟式野球大会への静岡市チームの出場	①延べ2,800人 ②1チーム以上	-	①- ②3チーム	-	①令和元年度の第1回野球ウィークにおいて、市内に宿泊予定であったチームが県外チームの51%であったことを踏まえ、本大会で定める目標値には、県外チーム(50チーム)の55%にあたる25チームが市内に宿泊することを想定し、同日目標値を設定した。 ②市選抜チームの出場をにより、市内中学生が全国大会を経験する機会を創出するため、同日目標値を設定した。	①延べ2,456人 ②2チーム	①B ②S	A	①実績値は第2回大会(繰越)及び第3回大会(現年)事業の平均値である。いずれも新型コロナウイルス感染症の影響がある中で大会開催であったが、ほぼ目標値に近い市内宿泊者数であった。 ②各大会とも市内から2チームが参加したことで目標値を達成したため。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で目標値を超えられるように、主催団体との連携を図る。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)							評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工				⑩成果指標(アウトカム指標)							⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度				
スポーツ交流課	142	清水エスパルス交流事業補助金	H 8 -	補助等(市・交付先)	清水エスパルスが実施する、青少年育成や地域交流を推進する各種事業を支援する。	㈱エスパルスへの補助金の交付(地域交流応援シート、ホームゲーム小中学生招待、巡回スポーツ教室の開催支援)	①補助金交付事務の実施 ②補助対象事業の実施支援	①実施 ②実施	①実施 ②一部実施	一般	4,500	—	2,700	0.3	0.1	①地域交流応援シート事業参加者数 ②小中学生招待者数 ③巡回スポーツ教室参加回数	①900人 ②540人 ③125人	①— ②535人 ③121人	①3,381人 ②859人 ③128人	①3,552人 ②646人 ③126人	①エスパルスホームゲーム入場制限下では、当該事業に係る入場者は大きく減少するものと推定。入場規制がシーズン後半戦(計9試合)から解除され、1試合当たり2地区計100人程度が参加するものと仮定し目標値を設定する。 ②新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、昨年度と同水準を目指す。 ③新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、昨年度と同水準を目指す。	①— ②1,062人 ③113人	①— ②S ③A	A	②は、対象試合を1試合から2試合に増やしたため、目標値を上回った。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、①は中止となった。また、③は一部中止により目標値を下回った。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した地域交流応援シート事業の実施方法の見直しや、小中学生招待事業におけるPR時期や方法をエスパルスと協議する。	
スポーツ交流課	143	清水エスパルスアウェイゲームパブリックビューイング開催事業	H 29 -	市(直営・委託)	市民が清水エスパルスに触れる機会、観戦する機会をより多く創出する。	清水エスパルスアウェイゲームパブリックビューイングの開催	①委託契約事務の実施 ②パブリックビューイングの開催件数	①実施 ②1回	①実施 ②1回	一般	2,600	—	2,581	0.2	0.0	①延べ来場者数 ②パブリックビューイングに満足した来場者の割合	①800人 ②90%	①972人 ②80%	①4,900人 ②90%	①4,100人 ②91%	①現況値及びコロナ禍の影響を鑑み、入場上限1,000人の8割程度の来場を目指す。 ②現況値及び新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、来場者の90%が当該事業に満足することを旨とする。	①617人 ②84%	①B ②A	B	新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言の影響で①来場者数が目標値を下回った。また、従前実施していた音楽イベントや飲食ブースを中止したため、②満足割合が目標を下回った。その影響を除けば、事前申込制や入場時の検温・手指消毒などコロナ対策を徹底し、安全安心なイベントとして適正に実施できた。また、来場者アンケートによれば、来場者の3割が市外から参加し、9割が周辺店舗で買物等をするなど、交流人口増加や地域商業振興にも寄与しており、成果指標以外にも相応の成果を得て、事業を適正に実施できた。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、来場者数を増やすための効果的な情報発信を行い、より楽しめるイベント・アトラクション等の取組みを検討する。	
スポーツ交流課	144	ホームタウンチーム誘客促進事業	R 3 -	市(直営・委託)	新型コロナウイルス感染症による影響を受けているホームタウンチームの活動を支援するため、ホームゲームへの誘客を図る。	清水エスパルス・ベルテックス静岡と協働し、両クラブホームゲームでの来場促進啓発品の配布や誘客促進イベントを実施	①委託契約事務の実施 ②来場促進啓発品の配布試合数 ③誘客促進イベントの実施回数	①実施 ②4試合 ③2回	①実施 ②4試合 ③2回	一般	7,800	—	7,799	0.2	0.0	①エスパルスを応援し、興味・関心を抱いている市民の割合 ②ベルテックスを知っている市民の割合	①75% ②60%	①63% ②55%	①73% ②51%	①71% ②—	①市民の75%が、エスパルスを応援し、興味・関心を抱くことを目指す。 ②市民の60%が、ベルテックスを知っていることを目指す。	①65% ②67%	①B ②S	A	ホームゲームでの来場促進啓発品の配布や誘客促進イベントを予定どおり実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民がエスパルスに接する機会が損なわれたことから、①エスパルスの応援割合の目標値は下回った。その影響を除けば、誘客促進イベントでは本市の地域資源の啓発を併せて実施し、シティプロモーションの推進など、成果指標以外にも相応の成果を得て、事業を適正に実施できたため。	応援機運の醸成を図るだけでなく、シティプロモーションの推進や地域の賑わい創出等を図るため、より効果的な啓発品やイベントを検討する。	
スポーツ交流課	145	清水エスパルス活用・応援機運醸成事業	H 28 -	市(直営・委託)	市民が、本市の心の公共財である清水エスパルスを応援する機運を醸成する。	①事業・イベント等への選手・マスコット等の派遣 ②エスパルス応援横断幕の作成、グッズの購入等 ③日本平運動公園球技場ネーミングライツパートナーシップ契約にかかる契約金の収入	①エスパルス選手等の派遣回数 ②作成・購入物品の活用回数 ③契約金の収入	①10回 ②15回 ③実施	①4回 ②14回 ③実施	一般	1,000	—	143	0.2	0.3	エスパルスを応援し、興味・関心を抱いている市民の割合	75%	63%	73%	71%	昨年度同様、市民の75%が、エスパルスを応援し、興味・関心を抱くことを目指す。	65%	B	B	年度当初、エスパルス選手等の派遣を14回予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、各種事業・イベント等が中止になったため、目標値を下回った。また、リーグにおける入場制限等で、市民がエスパルスに接する機会が大きく損なわれたことも要因として考えられる。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より高い効果を期待できる事業・イベントの選別や、派遣・活用回数を増やすために庁内各課への声掛け等を積極的に取り組んでいく。併せて、エスパルス創設30周年に向けた事業を検討する。	

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など							
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)		⑧事業費			⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容				
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	合計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値					当該年度の目標値の算出根拠	実績値	達成度	
スポーツ交流課	146	サッカーを活かしたまちづくり推進事業	H 16 -	市(直営・委託)	本市の地域資源であるサッカーを活かし、地域の賑わい創出や子どもの健全育成及び、施策推進に向けた関係各者との連携強化等を図る。	①JFAこころのプロジェクト「夢の教室」開催 ②日本サッカーを応援する自治体連盟等、関係各者との連携 ③エスパルス教育サポート事業「エスプラス」の授業実施支援 ④エスパルスホームタウンコーナーの設置 ⑤サッカーのまち啓発「オレンジバナー」の掲出 ⑥各種サッカー大会開催支援	①「夢の教室」開催クラス数 ②日本サッカー応援自治体連盟関連会議への参画回数 ③授業回数 ④各区へのホームタウンコーナー設置 ⑤オレンジバナーの掲出箇所数 ⑥支援する大会の数	①3クラス ②2回 ③10回 ④実施 ⑤8箇所 ⑥3大会	①9クラス ②2回 ③14回 ④実施 ⑤8箇所 ⑥3大会	一般	2,109	—	1,439	0.5	0.5	サッカーのまちである本市に愛着を抱く市民の割合	70%	55%	68%	67%	昨年度同様、市民の70%が、サッカーをきっかけに地域に愛着や誇りを抱くことを目指す。	56%	B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、リーグの入場制限や草サッカー大会等各種大会の中止など、市民がサッカーに触れる機会が少なかったことにより、成果指標の目標値を下回った。一方で、各種事業をオンラインで実施する等臨機応変に対応したことで活動指標の目標値を上回ることができた。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より効果的な事業を、同協議会とともに検討する。
スポーツ交流課	147	フットサル・サッカーのまち市民協議会補助金	H 7 -	補助等(市・交付先)	ホームタウンチームを活かしたまちづくりを官民連携して推進する「フットサル・サッカーのまち市民協議会」の活動を支援する。	同協議会への補助金の交付(オレンジスポーツフィールド、ホームタウンチームPR事業、サッカー日本代表応援事業等)	①補助金交付事務の実施 ②補助対象事業の実施支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	1,455	—	1,364	0.4	0.1	①エスパルスを応援し、興味・関心を抱いている市民の割合 ②ベルテックスを知っている市民の割合	①75% ②60%	①63% ②55%	①73% ②51%	①71% ②—	昨年度同様、 ①市民の75%が、エスパルスを応援し、興味・関心を抱くことを目指す。 ②市民の60%が、ベルテックスを知っていることを目指す。	①65% ②67%	①B ②S	A	新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな集客を図るイベントや啓発活動を実施できなかったため、①は目標値を下回った。しかし、例年実施している参加・体験型のイベントを展示型に変更する等、成果指標以外にも相応の成果を得ることができた。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より効果的な事業を、同協議会とともに検討する。
スポーツ交流課	148	野球を活かしたまちづくり推進事業	H 25 -	補助等(市・交付先)	市民野球熱の醸成を図り、野球を活かした地域活性化を推進する。	①楽天イーグルス市民交流事業の開催 ②プロ野球オープン戦開催支援 ③野球を活かしたまちづくり推進可能性調査の実施	①楽天市民交流事業の実施 ②オープン戦告知活動の実施 ③可能性調査の実施	①実施 ②実施 ③実施	①実施 ②実施 ③実施	一般	7,000	—	5,290	1.0	0.0	①楽天未来塾に参加により、野球へ関心を持った参加児童の割合 ②プロ野球オープン戦(土、日)の来場者数	①85% ②16,000人	①— ②7,590人	①81% ②無観客試合	①76% ②15,242人	①実施2ヶ年実績を鑑み、85%の児童が野球へ興味を持つことを目指す。 ②現況値及び新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、1試合8,000人(2試合計16,000人)の来場を目指す。	①75% ②13,161人	①B ②B	B	新型コロナウイルス感染症の影響により、①楽天未来塾は、実施方法に制限があり、野球へ関心を持った児童の割合が目標を下回った。また、②プロ野球オープン戦においては、従前実施していた子ども向けのイベントを実施できなかったこと等から目標値を下回った。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの市民が地域資源である野球に触れられるよう、交流事業の内容を充実させていく。
スポーツ交流課	149	大学野球オータムフレッシュリーグin静岡開催事業補助金	H 30 -	補助等(交付先)	野球を通じた交流人口の増加及び参加者・関係者の交流を促進し、野球を活かしたまちづくりを推進する。	毎年11月に開催される「大学野球オータムフレッシュリーグin静岡」の主催者である実行委員会への補助金交付	①補助金交付に係る事務処理の円滑な実施 ②実行委員会の運営支援	①実施 ②実施	①実施 ②実施	一般	2,000	—	2,000	0.2	0.0	①大会に満足した来場者の割合 ②市外からの来場者の割合	①80% ②50%	①75% ②50%	①— ②56.5%	—	①現況値及び新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、来場者の80%が当該大会に満足することを旨とする。 ②現況値及び新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、来場者の50%が市外からの来場者となることを目指す。	①80% ②50%	①A ②A	A	広く大会を告知するために、SNSでの効果的な情報発信等広報を強化したことで目標値を達成した。また、市内高校生を対象にしたオンライン野球教室や市内中学生を対象にした対面での野球教室を開催するなど、成果指標以外にも相応の成果を得て、事業を適正に実施できた。	新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で、より多くの市民が地域資源である野球に触れられるよう、大会を円滑に開催する。また、参加大学の学生有志による企画チームが大会運営を担っているため、学生が入れ替わっても、前回大会までのノウハウを継承していくことが課題であるため、実行委員会と連携をとり、大会の安定的運営を支援していく。
日本平動物園	150	日本平動物園運営委員会	S 44 -	市(直営)	動物園、遊戯施設、駐車場及びその他の施設を適正かつ効率、効果的に運営するにあたり、広く市民の意見を反映させるため、調査・審議を行う。	運営委員会を開催し、日本平動物園の運営に係る案件の審議を行う。	運営委員会開催数	2回	2回	一般	138	—	115	0.2	0.0	①委員会への付議件数 ②委員会からの審議結果への対応	①3件 ②実施	①3件 ②実施	①3件 ②—	①3件 ②—	①当園の運営及び行事計画、入園者の誘致などの事項について3件以上付議することを目標値に設定した。 ②委員会からの審議に対する意見等に対して、対応可能な案件を実施することを目標値とした。	①3件 ②実施	①A ②A	A	計画どおり会議を実施し、審議案件数について、目標値を達成した。また、委員からの意見等に対して、改善実施、検討を行った。	当園の運営に関する必要案件について、引き続き踏っていく。女性委員登用割合向上のため、次期改選期に働きかけを強化する。

①所属名	No.	事業概要(全体)				活動の状況(アウトプット)			投入コスト(インプット)				成果(アウトカム)						評価及び次年度以降に向けた課題・改善など								
		②事務事業名	③期間	④事業の実施主体	⑤事業目的	⑥事業内容	⑦活動指標(アウトプット指標)			⑧事業費				⑨人工		⑩成果指標(アウトカム指標)						⑪1次評価	⑫評価理由	⑬今後の課題と課題解決に向けた取組内容			
							指標名	当該年度の目標値	実績値	合計	予算額(千円)	前年度からの繰越額(千円)	決算額(千円)	正職員(人)	会計年度任用職員(人)	指標名	当該年度の目標値	直近3か年の実績値			当該年度の目標値の算出根拠				実績値	達成度	
日本平動物園	151	動物園管理運営事業	S 44 -	市(直営・委託)	適切な管理・運営の下、観光の拠点施設として、来園者数の増加及び利用者満足度の向上を図る。	①来園者増加に向けた広報事業 ②年間を通じた多彩なイベント開催 ③来園者への安全な施設の提供	①広報活動(報道提供等の情報発信)の実施件数 ②動物園イベントの実施件数 ③施設の定期的な点検と修繕	①180回 ②30回 ③実施	①199回 ②31回 ③実施	一般	445,415	8,640	421,044	32.8	10.0	①来園者数 ②アンケートによる来園者満足度 ③事故発生件数	①400,000人 ②90% ③0件	①372,147人 ②88.0% ③2件	①509,539人 ②86.7% ③1件	①539,395人 ②95.1% ③0件	①コロナ禍のため、当初目標の55万人に、令和2年度/令和元年度の来園者率を乗じて算出した。 ②過去3か年の平均値より算出した。 ③飼育動物の管理や園施設の定期点検等を実施し、来園者の安全を確保するため事故発生0件と設定した。	①420,937人 ②96% ③0件	①S ②S ③A	A	臨時休園期間があったが、再開後は来園者数を持ち直し、目標値を上回った。1次評価は、達成度割合の平均値から評価した。	当園の基本理念である「いのちを感じ、次世代につなぐ動物園」の実現のため、絶滅危惧種や動物たちの生息地の厳しい環境を来園者に伝え、生物多様性の保全について考えるきっかけを作る場の拡充をしていく。 また、感染予防対策を継続しつつ、イベントの早期再開を目指していく。	
	152	教育普及事業	S 44 -	市(直営)	情操教育や環境教育の拠点として、「動物を理解し、愛情と思いやりをもって生活し、それを次世代に伝えていける人」を育成する。	動物などを通じての教育普及活動	幼児動物教室の実施回数	120回	139回	一般	445,415	8,640	421,044	32.8	10.0	アンケートによる幼児動物教室の理解度	90%	88.4%	—	—	幼児動物教室は、動物とのふれあいを通じて、愛情や思いやりの心を育てることを目的とするため、その学びへの理解度を90%の目標として設定した。	89.0%	A	A	幼児動物教室の参加者の理解度は、昨年度を上回ったが、目標値をやや下回った。	幼児動物教室の充実と更なる満足度の向上のため、ニーズにあった教育事業となるよう適時見直しを図っていく。	
	153	種の保存事業	S 44 -	市(直営)	動物の行動や環境エンリッチメント等の研究を行い、希少動物種の繁殖を図る。	希少動物種の繁殖推進 ※希少動物:IUCN(国際自然保護連合)レッドリスト(CR, EN, VU)又はワシントン条約附属書 I、IIに該当する動物	繁殖のための研究実施件数	2件	9件	一般	445,415	8,640	421,044	32.8	10.0	希少動物の繁殖種数	5種	9種	4種	5種	動物園の使命である「種の保存」を実現するため、園の規模等を踏まえ、5種繁殖を設定した。	7種	S	S	繁殖実績数が目標値を上回った。	「種の保存」の実現のため、継続して大学等と緊密に共同研究事業を実施していくほか、他機関との情報及び技術の共有を図る。	
日本平動物園	154	大型動物導入推進事業	H 30 -	市(直営・委託)	新たなアジアゾウ導入の可能性について調査を行う。	アジアゾウを導入するための情報収集及び原産国との協議等に関する調査を行う。	導入可能性調査	実施	実施	一般	4,933	—	0	1.0	0.0	①原産国選定調査 ②関係機関等への情報収集	①実施 ②実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	①実施 ②実施	現在は、交渉先となる原産国の決定と導入に向けた可能性を調査する段階のため、調査実施を目標値として設定した。	①実施 ②実施	①実施 ②実施	A	A	コロナ禍により原産国へ協議のための訪問ができなかったが、大型動物導入のための交渉先となる原産国の調査と情報収集を実施した。	コロナ禍における今後の情勢を見極めつつ、可能な時期に早期の訪問を検討する。また、他の原産国からの導入の可能性も含め調査を継続していく。